

財団法人衣笠会 纖維研究所研究報告

第1号

1993年 月

〈目次〉

巻頭言 1

エネルギー収支による繭生産の解析 3
西村太良・松本継男・松原藤好
大西盛夫・濱崎 實*

消費者の絹需要動向について 11
米村弘三

* 京都工芸繊維大学繊維学部

〈 卷 頭 言 〉

財団法人衣笠会は昭和25年(1950年)に「繊維教育の振興と繊維産業に関する総合科学的研究および実用化の研究とにより広く繊維界に寄与すること」を目的として創設され、以来多方面にわたって公益活動を展開しております。

昭和56年までは繊維教育の振興と会館の設置運営が事業の中心でありましたが、昭和57年度より衣笠会館内に繊維研究所を設置し、本会での繊維に関する研究の準備と、関係大学や国、府県の研究機関の研究者に対する研究費の交付など、きめ細かく活動を続けてまいりました。

しかしながら、昭和60年度より従来活動をさらに充実させ、本財団独自の学術研究として特に繊維の中でも天然繊維の生産とその利用に関する技術の向上、発展を通じ絹文化の維持、発展に寄与することに重点をおき、京都工芸繊維大学において独創的に発展させてきた人工飼料による家蚕および野蚕の繭生産の研究、それに伴う新しい製糸・製織、染色に関する研究並びに絹加工・細織度糸(特殊生糸)、絹の新規用途開発などに関する試験研究を行っており、また一部本会の研究課題は大学および研究機関(国公立、民間)との共同研究や委託研究を行っております。

本会はまだ設立の日も浅く内容は充分とは言えませんが、この度、本会での研究活動の一部を報告し、広くご批判を仰ぐ運びとなりました。なお今後とも本会の研究成果は順次公表致してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成5年4月

財団法人衣笠会

会長 松田鶴美

エネルギー収支による繭生産の解析

西村太良、松本継男、松原藤好、
大西盛夫、濱崎 實*

1. 緒言

養蚕は19世紀末頃から、わが国における農業の主要な部門として大きな役割を果たしてきた。しかし近年では、生糸の内需停滞と低廉な外国産生糸及び絹製品の輸入圧力などの厳しい環境下に於て、養蚕戸数、桑園面積、繭生産量は減少傾向をたどり、特に1991年の取繭量は約2万トンになっている。昨今の養蚕農家は二極化が進み、一方は養蚕を副業のままの地位に置き、徐々に減産している農家と、他方では養蚕の主業化を目指し、省力化と合理化によって規模拡大を図っている農家が共存している（この場合も両者ともに農家戸数は大幅な減少を示している）。しかしこの場合には、多肥化、多農薬化、機械化が進んでおり、投入されるエネルギーは大きくなっている。絹糸を化学繊維も含めた繊維として、又農産物として考えると、主業化による競争力はこの投入エネルギーの大小が今後のこのような生産物の競争力を考えていく上で重要なパラメータとなる。他の繊維や、他の農産物生産にたいする繭生産の位置づけを明確にするうえでこの投入エネルギーによる分析は一つの大きな手段であると考えられる。

ここでは繭生産に対してエネルギー収支による解析の可能性を探るために、生産にかかわる種々の項目について調査を行い、投入エネルギーに換算して、飼育規模、飼育方式の検討を行った。飼育調査は稚蚕期（1～2齢）共同飼育における人工飼料育と桑葉育の各々について、人工飼料育については7ヶ所、8種類、桑育については3ヶ所について解析した。

2. 飼育調査

人工飼料育については 衣笠会が昭和60年度に行った「人工飼料による蚕糸生産の可能性に関する研究」の一環としておこなわれた調査を用いた。調査は、飼育箱

.....
* 京都工芸繊維大学繊維学部

数、労働人数及び時間、宿直人数、飼料量、電気料金等を、あらかじめ用意された調査用紙の項目の欄に記入していく方式が取られた。調査場所は、稚蚕期人工飼料育については、宮崎県尾鈴、宮崎県高千穂、熊本県阿蘇小国、京都府綾部市、京都府福知山市、京都府大江町、および京都工芸繊維大学繊維学部付属農場の7ヶ所（付属農場については2種類）の人工飼料育について調査した。調査年度は昭和60年度であった。また、桑育については昭和48年度の「京都府稚蚕共同飼育所の運営管理に関する調査報告」から京都府波江、京都府南有路及び京都府岡田第一での調査結果を用いた。調査資料は若干古いものではあるが、その内容が詳細であり、基本的傾向は変わらないと考えられる。桑葉育の調査結果に対しては人工飼料育との調査年度の相違を考慮にいれ、労働費を3.5倍に、その他の物には1.6倍の値を用いた。

3. 稚蚕共同飼育費目のエネルギー濃度

各費目に置けるエネルギー使用量の計算は、直接エネルギーに関しては、その費目がエネルギー部門に支出した金額を使用エネルギー種別にその単価で除して使用量を求め、その数量に単位発熱量を乗じて産出する。間接エネルギーについては、その関連部門における直接エネルギーの使用量から算出する。直接及び間接エネルギーを合わせて使用エネルギー量とする。「産業関連表-延長表-」（昭和49年）から辻が求めたものを利用した。

3.1 蚕種費

蚕種のエネルギー濃度は延長表によっても不明であるが、濱崎が推定した1200 kJ/kgを用い、蚕種1箱あたりは11.7gであるので、蚕種の1箱当りのエネルギー濃度は14.0kJとした。

3.2 労働

労働については人間の活動エネルギー濃度を使用して算出した。ここでは時間当りの所要エネルギー量を求めた。時間当りの所要エネルギーEは(1)式より得た。

$$E = E_a \times W \quad (1)$$

ここでWは体重。E_aは活動代謝量で次式で示される。

$$E_a = B' \times (RMR + 1.2) \quad (2)$$

RMRはエネルギー代謝率。またB'は基礎代謝基準値Bと基礎代謝の補正值Xを用い

て

$$B' = B \times (100 + X) \quad (3)$$

とした。

労働者の基準として年齢40代、男女比3:7とした。身長157cm、体重60kgとして基礎代謝基準値 $B = 21.5$ を得た。人工飼料育の労働強度は中程度、桑葉育の労働強度はやや重いとして、前者については $X = 0$ 、後者については $X = 2$ とした。またRMRの値は、正常歩 (70~80m/min) の3.5を採用した。

以上より時間当りの所要エネルギーは、人工飼料育については時間当たり61.3kJ、桑葉育については80.8kJを算出した。

3.3 宿直

宿直の場合の所要エネルギーは、ゲートボール程度としてRMR=1.4、また労働強度は軽いとして、 $X = -2$ を採用し、前節と同様に算出し時間当たり33.0ジュールとした。

3.4 飼料

人工飼料については表1に示すようにその成分表に基づいて391.1kJ/kgと算出した。

桑葉は桑の単位あたりのエネルギー濃度が不明であるため、延長表のその他の耕種作物のエネルギー濃度の142kJ/kgを使用し、又桑はすべて買入桑とした。

表1 人工飼料成分とエネルギー濃度

成分	割合 (%)	エネルギー濃度 (kJ)	
		1 kg当り	割合
桑葉	36	143	51.6
大豆粉	35	458	160
澱粉	15	71.7	10.8
糖分	7.5	552	41.4
無機塩類	2.0	1662	33.2
有機薬剤	4.5	2093	94.2
合計			391.1

3.5 薬剤

養蚕作業、栽桑作業については、調査報告書によればこれらの購入量、価格の詳細はわかるが、延長表には農業薬剤の独立の部分はない。そこで単位当りのエネルギー濃度に濱崎の推定値8.70kJ/円¹⁾を用いて算出した。

3.6 光熱水

桑育の場合は、光熱費として報告されており、その詳細はつかめないが、出納と施設園芸の中間とし、単位当りのエネルギー濃度を47.8kJ/円と推定した。人工飼

料については、電気、水道、燃料のそれぞれについて求めた。

a) 電気：平均料金として小口電力の17円/kW・hを使用した。エネルギー濃度は延長表から478kJ/kWとして、単位当りのエネルギー濃度は、28.1kJ/円を用いた。

b) 水道：水道は延長表から単位当りのエネルギー濃度を8.24kJ/円とした。

c) 燃料：燃料費の詳細は不明であるが、全ての燃料は灯油とした。単位当たり80円/円として、エネルギー濃度は延長表から2250kJ/円であるから、単位当りは28.1kJ/円となる。

3.7 消耗器具

産業関連表の産業機械部門の単位当りのエネルギー濃度4.90kJ/円をそのまま適用した。ここで桑葉育の諸材料費も同様とした。

3.8 施設

桑養育は調査報告に施設費として表されており消却年数も考慮されていた。しかし施設費の内訳は不明であるので、住宅部門と産業機械部門の5.30kJ/円と4.9kJ/円から

表2 エネルギー投入量の算出基準

5.0kJ/円を推定して

用いた。人工飼料育は施設費を建物と装置備品費として現されており、別々にエネルギー濃度を決定した。

a) 建物：

木造、鉄骨スレートとも、延長表の非住宅新築部門の 4.18×10^6 kJ/m²とした。耐用年数を考慮して、償却年数を木造は18年、鉄骨は40年とした。

項目	算出基準	kJ	備考
蚕種	14.0	/箱	
労働	61.3	/時間	人工飼料育
	80.8	/時間	桑葉育
宿直	33.0	/時間	
飼料	391	/kg	人工飼料
	142	/kg	桑
薬剤	8.70	/円	
光熱水	28.1	/円	電気
	8.24	/円	水道
	28.1	/円	灯油
消耗器具	4.90	/円	
施設	5.02	/円	桑葉育
	4.18×10^6	/m ²	人工飼料育の建物
	4.90	/円	人工飼料育の装置、備品
修繕	4.90	/円	農器具
賃借	4.90	/円	農器具
食料	6.71	/円	

b) 装置・備品：産業関連表の産業機械部門の単位当りエネルギー濃度4.9kJ/円をそのまま適用した。建物と同様に耐用年数を考慮し、償却年数を10年とした。

3.9 修繕

費目内容で修繕される主なものは農蚕具と考えられるので、延長表の産業機械部門の単位あたりのエネルギー濃度4.9kJ/円をそのまま適用した。

3.10 賃借

賃借された物は主として農蚕具と考えられるので、延長表の産業機械部門の単位あたりのエネルギー濃度4.9kJ/円をそのまま適用した。

3.11 食料

エネルギー濃度は延長表のその他の食料部門を適用し、その単位当りのエネルギー濃度6.71kJ/円を用いた。

以上に示した各項目のエネルギー投入量の算出基準を表2に示す。

4. 稚蚕育1箱当りの投入エネルギー

4.1 人工飼料育

表3に人工飼料による稚蚕期の1箱当りの投入エネルギー量を示す。投入エネルギー

表3 稚蚕期人工飼料育一箱当りの投入エネルギー

	尾宮	高千穂	阿蘇 小国	綾部	福知山	大江	京工織 A	京工織 B
飼育箱数	1718	2315	469	554	1583	1104	72	60
投入エネルギー(kJ)								
蚕種	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
労働	136.	34.2	85.3	166.	76.0	92.0	49.0	11.0
宿直	8.3	5.5	0.	27.5	20.0	12.5	0.	0.
飼料 (10 ²)	13.5	14.1	12.6	14.6	13.7	13.5	12.2	3.1
薬剤 (10)	44.9	6.2	65.2	155.	87.9	55.4	244.	139.
電気 (10 ³)	11.5	8.4	5.9	15.6	17.7	13.1	128.	5.2
水道 (10)	0.	16.1	11.1	10.4	43.2	23.9	989.	82.2
燃料 (10 ²)	35.4	19.4	33.4	54.9	66.2	44.7	7.4	31.1
消耗蚕具(10)	46.1	14.6	58.1	385.	58.3	38.7	375.	143.
小計 (10 ³)	17.4	12.2	11.9	28.3	27.7	20.2	146.1	12.3
建物 (10 ²)	31.8	21.4	52.8	105.6	34.9	31.3	100.6	83.9
装置備品(10 ²)	56.9	67.4	210.0	117.5	96.3	99.1	116.3	97.0
合計 (10 ³)	26.3	21.1	38.2	50.6	40.8	33.1	167.8	30.4

ギーとして多いのは電気を主とする光熱、及び施設でこれらでほぼ全体の70%以上になる。次に多いのが飼料となっており、その他の労働、蚕種、薬剤、消耗器具などは2~10%程度となっている。京工織大農場は2通りあるが、Aは従来から行われていた方法で無菌で密閉系で飼育する方式である。Bは最近松原らによって開発された方式で^{7・8)}、餌や給餌法の改善がなされたことにより、飼育時の密閉性がそれほど必要でなくなり投入エネルギー量は画的に小さくなっている。又共同飼育場に比べても小さい値を示している。

4.2 桑育

表4に桑育の稚蚕共同飼育における1箱当りの投入エネルギーを示す。南有路の施設費が他と比べて突出しているのは、この時すでに空調機などの人工飼料育に対応できる施設で飼育していたためである。このため光熱水料費は他の2ヶ所より少なくなっている。浪江と岡田上第一についても施設費と光熱水料費は反比例している。人工飼料育と桑育の労働についてみると、

桑育は人工飼料育のほぼ倍のエネルギーを消費している。このことは人工飼料育の労働生産性の高さを示している。

4.3 飼育箱数と投入エネルギー

図1に飼育は箱数と1箱当りの投入エネルギーの関係を示す。○で示したのは人工飼料育で、そのうち●は全投入エネルギーを示す。京工織大農場を除いた6ヶ所での投入エネルギーの飼育箱数に対する相関係数は-0.7916となり大きな負の相関を示す。これは飼育箱数が多いほど1箱に費やされるエネルギーが小さくなるというスケールメリットが働いていることを示している。実線で示した全投入エネルギーと飼育箱数の関係は、

$$\text{全投入エネルギー} = -0.0117 \times \text{飼育箱数} + 50.1$$

表4 稚蚕共同飼育（桑育）一箱当りの投入エネルギー

	波江	南有路	岡田上第一
飼育箱数	200	378	252
投入エネルギー(kJ)			
蚕種	14.0	14.0	14.0
労働 (10)	36.3	22.0	239.0
飼料 (10 ²)	13.0	14.5	13.0
光熱水料(10 ³)	10.2	5.1	21.2
諸材料 (10)	84.8	85.8	259.4
小計 (10 ³)	12.7	7.6	25.9
施設 (10 ³)	7.1	64.1	3.6
合計 (10 ³)	19.8	71.7	29.5

となった。

○は全投入エネルギーから建物、装置・備品を除いた値を示す。阿蘇小国が他と比べて小さい値を示しているのは、装置・備品に他の場所より大きなエネルギーを投入しているためと考えられる。阿蘇小国を除いた相関係数は-0.7648となり、標準的な建物、装置・備品を設備しているところでは大きな負の相関関係があることが示された。破線で示したその関係は、

$$\text{投入エネルギー（除建物、装置・備品）} = -0.008 \times \text{飼育箱数} + 32.7$$

となった。

△で示したのは桑育による投入エネルギーで黒三角は全投入エネルギー、▲は建物、装置・備品を除いた値である。特別の事情のある南有路の全投入エネルギーを除くと、人工飼料育より小さい投入エネルギーとなっている。

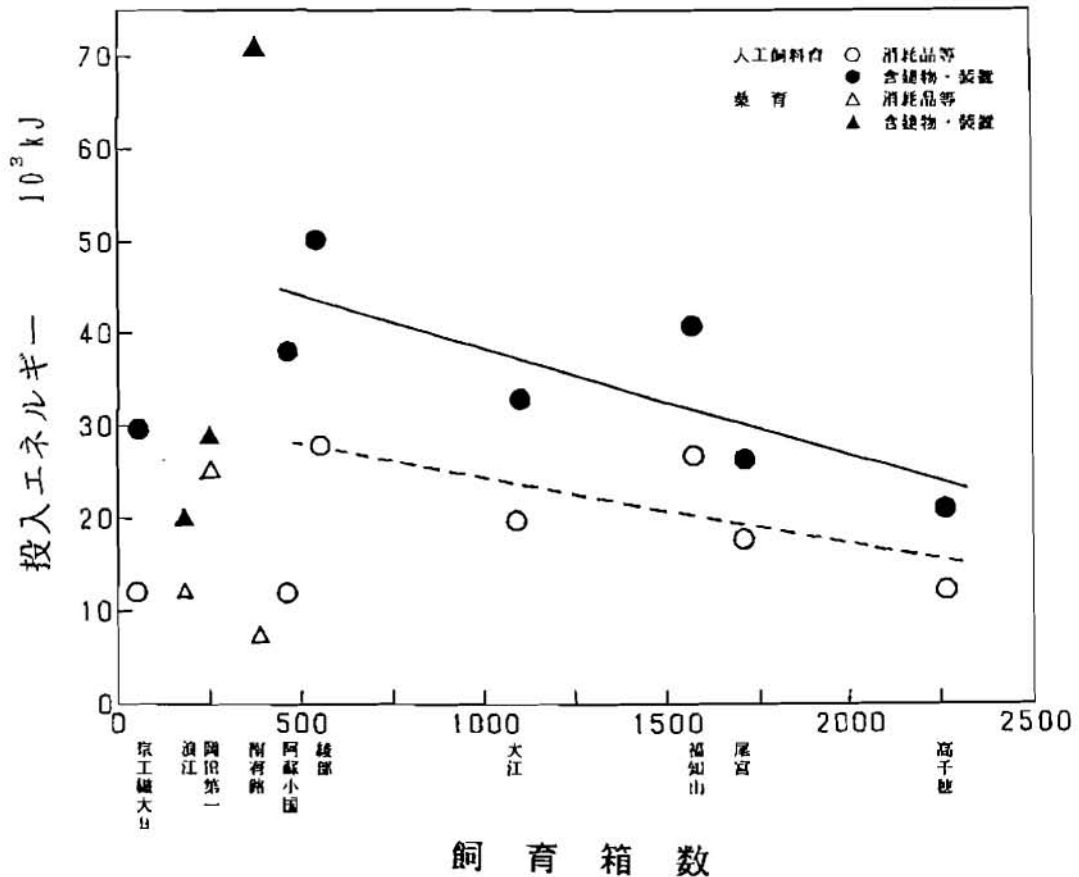


図1 飼育箱数と1箱当たりの投入エネルギー

5. まとめ

繭生産のエネルギー収支による解析の可能性を探るために稚蚕人工飼料育、及び桑育の調査結果を基に繭生産に対する投入エネルギーの計算を試みた。さらに計算結果を基に飼育箱数に対する投入エネルギーの関係や人工飼料育と桑育の比較、又京工織大農場での2つの飼育方法の比較を行った。飼育箱数についてはスケールメリットが働いていることが確認された。又、人工飼料育より桑育の方が投入エネルギーが小さいこと、さらに京工織大農場の2つの方式では新しい方式が画期的に投入エネルギーが小さい結果が得られ、エネルギー収支による繭生産の解析が可能であることが示された。

謝辞 本研究の遂行にご協力願った、調査地区の各位に深甚謝意を表します。

参考文献

- 1) 濱崎實：繭生産のエネルギーアナリシス、京工織大繊維学部学術報告、11、2 (1986)
- 2) 科学技術庁資源調査会編：衣食住のライフサイクルエネルギー、大蔵省印刷局、(1979)
- 3) 経済企画庁：世界経済白書、大蔵省印刷局、(1976)
- 4) 農林水産省農蚕園芸局：蚕糸業要覧、日本蚕糸新聞社、(1986)
- 5) 本庄繁任：減価償却資産の耐用年数表、納税協会連合、(1986)
- 6) 浜村保次編：蚕の人工飼料への道、みすず書房、(1975)
- 7) 松原藤好、大西盛夫、松本継男、林屋慶三：日蚕雑誌、50、260(1981)
- 8) 松本継男、松原藤好、大西盛夫、林屋慶三：日蚕雑誌、50、359(1988)

消費者の絹需要動向について

平成3年3月

米村 弘三

消費者の絹需要動向について

米村 弘三

1. はじめに

絹需要動向を示す指標としては、

1. 生糸需給統計
2. 絹需給統計
3. 全国織物産地実態調査
4. 家計調査

などがあるが、最近の需給実態からすれば、更に貿易統計を加える必要があろうかと考えられる。

ここでは、これらのほか、若干のアンケート調査の結果をも併せて紹介することとする。

2. 近年の蚕糸動向

生糸需給あるいは絹需給は、当然の事ながらわが国蚕糸業の動向と無縁のものではなく、相互に干渉しあって、それぞれの統計数値を生み出している。

そこで、先ず最初に、わが国蚕糸業の戦後の動きを簡単に要約してみることにする。

戦後のわが国蚕糸業は、繭・生糸の生産動向から、大きく分けて次の三期に区分することができる。

第Ⅰ期 1945～1957 回復増産期

第Ⅱ期 1958～1973 再編安定期

第Ⅲ期 1974～ 減退期

第Ⅰ期

昭和20年(1945) GHQ覚書き；桑園縮小政策撤廃、統制解除、生糸輸出復興等

昭和21年(1946) 蚕糸業復興緊急対策要綱；蚕糸業復興五ヶ年計画（第一次）

昭和25年(1950) 蚕糸業復興五ヶ年計画（第二次）

昭和26年(1951) 繭糸価格安定法公布

昭和30年(1955) 繭糸価格安定法による買上げ実施

戦争による荒廃、戦後の食糧難時代の中で経済復興の担い手の一つとして囁目された蚕糸業は、昭和20年（1945）の生糸生産量87,075俵、昭和22年（1947）の繭生産量52,500トンを底として、昭和32年（1957）年には繭生産量 119,500ト、翌33年の生糸生産量は戦後最高の 333,573俵を示すまでに回復した。

第Ⅱ期

- 昭和33年(1958) 生産調整事業；生産制限、桑園整理
- 昭和36年(1961) 農業基本法制定
- 昭和37年(1962) 農産物の需要と生産の長期見通し
- 昭和37年(1962) 繭・生糸貿易自由化
- 昭和43年(1968) 農産物の需要と生産の長期見通し（第二次）
- 昭和47年(1972) 繭糸価格安定法一部改正・生糸一元輸入制度

昭和29年末から始まった「神武景気」が昭和32年半ばから翌33年半ばに掛けて急速に下降線を辿ったことなど、内外の景気の余波を受けて輸出や国内の生糸需要が減少し、市中在庫が急増した結果、10万俵に及ぶ政府買入が生じ、33年の夏秋蚕二割制限と安定帯価格の引き下げ、33年から34年に掛けての桑園三割減反などの対応策が行われた。

その結果、価格引き下げによる輸出力の回復に加え、昭和33年 6月から始まり、昭和36年12月を頂点とし、昭和37年秋まで続いた、いわゆる「岩戸景気」の余波を受けて、昭和35年には滞貨が一掃され、再び順調に発展するかに見えた。

すなわち、繭の生産は昭和43年（1968）に戦後最高の 121,014トンを、生糸生産は昭和44年（1969）に同様に 358,090俵を記録し、この間、多少の紆余曲折は有りながらも、作れば売れると言う状態が続き、生糸価格も年々上昇した。

第Ⅲ期

- 昭和49年(1974) 生糸輸入一元措置実施
- 昭和50年(1975) 韓国絹糸に対し、事前許可制
平織絹織物に輸入承認制
- 昭和51年(1976) 絹糸、絹織物の関税軽減措置停止
中国産絹織物輸入承認制
- 昭和52年(1977) 絹織物事前許可制
- 昭和54年(1979) 絹糸事前確認制
- 昭和56年(1981) 繭生産調整始まる

昭和58年(1983) ジャパンシルクセンター開設

昭和61年(1986) 蚕糸業振興審議会産繭量4万トンを確保を決議

しかしながら、昭和37年、繭、生糸、絹織物など蚕糸関係物資の貿易の自由化が実施されたことに伴って、昭和40年代に入ると、生糸その他の輸入が年々増加し、それまでの国内の需給関係だけでは律することが出来なくなり、わが国蚕糸業は否応なしに国際競争の場に曝されることになった。

しかも海外産品が発展途上国の低賃金をベースとしたものであるだけに、国産品との間に価格ギャップを生じ、国産生糸価格の上昇の足を引っ張ることになった。

この為、昭和49年には生糸の一元輸入措置、また昭和50年には絹織物輸入の事前承認制、さらには昭和51年から中国・韓国との間の二国間協定など種々の輸入コントロールの措置が取られ、養蚕基盤の維持が図られたが、国内の繭生産量は昭和44年以降減少に転じ、昭和50年に10万トンの大台を割ると、昭和50～54年には△4.3%、55～59年には△8.9%、そして昭和60年以降の5年間では△11.8%という高い年率で減少を続けている。

昭和61年、蚕糸業振興審議会は蚕糸業基盤維持のため、産繭量4万トン確保を決議したが、その後も繭の減産傾向は続き、平成元年(1989)の繭生産量は26,819トンとなり、わが国の繭生産統計が始まった明治19年(1886)の41,716トンの2/3の水準に落込んでしまった。このため生糸生産量も減少しているが、若干の輸入繭があるため、101,301俵となっている。

なお、このような急速な繭生産の減少が生じたのは、内外の物価上昇に伴う生産手段の高騰、特に労賃の上昇から来る生産費の高騰に比べて、海外競争力の観点から繭価格が低水準に抑制され、経済作物として成り立たなくなっているためである。

3. 生糸需給

このような状況の中で、時代別に生糸需給状況を総括してみると、おおむね次の通りとなる。

先ず1950年代は、繭生産の増加にともなって生糸生産量も増加傾向を示し、おおむねその1/4乃至1/3が生糸で輸出された。このほか国内に引き渡され、絹糸、絹織物、絹二次製品の形で輸出されたものもあるが、1955年以前は詳らかにされていない。50年代後半についてみると、生産量の6割前後が国内で消費されたと見られる。その量は18万俵余であった。

これが1960年代に入ると、まず急速な生糸輸出の減少という変化を見せる。海外市場に

において中国との価格競争に敗れた結果、生糸輸出は年を逐って急速に減少し、1960年に生産量の3割を占めたものが、1969年には1%になってしまった。

その反面、生産量に対する純内需の割合は、60～63年に6割余であったものが1964年には76%、1965年には91%、そして1967年には生産量に対する純内需の割合が102%と生産量を上回るに至った。1969年の生糸生産量は358,090俵と戦後最高を示したのであるが、この年の純内需は405,038俵とされており、国内生糸生産量を13%も上回る事となった。1960年代の生糸純内需量の平均を算出すると、前半が205,462俵、後半が323,849俵となり、年を逐うに従って増加している。その要因として1960年代の後半に持続したいわゆる「いざなぎ景気」の影響があるものと考えられる。

1970年代に入ると、細々と続いてきた生糸輸出が、1974年を最後に途絶したが、この期間内を通じて、いずれの年も純内需が生糸生産量を上回り、輸入生糸への依存体質が定着した。特に1970年代前半の純内需量は平均417,062俵に達し、同期間内の平均生糸生産量325,297俵は、純内需量の78%をカバーするに過ぎなかった。

この旺盛な純内需も昭和47年(1972)の493,414俵を頂点として、次第に減少し、1979年には30万俵の大台を割り込んだが、それでも1970年代後半の純内需量の平均は325,824俵に達し、同期間内の平均生糸生産量286,810俵を大きく上回った。

しかしながら1980年代に入ると、生糸生産量と純内需量がほぼ均衡を保つようになった。1980年代前半の国産生糸の平均生産量は224,015俵であるが、この期間の純内需量の平均は219,009俵で、生産量の98%に当る。つまり、ほぼ国内の生産で賄い得る数量になったのであるが、一旦道の開かれた輸入がストップする筈もなく、この5ヶ年間に168千余俵の生糸が輸入され、それに見合う数量の生糸が、過剰在庫として、蚕糸砂糖類価格安定事業団に滞貨の山を築き、1984年末には179,376俵もの生糸が事業団に保管される事となった。

しかし、1980年代後半になると、純内需量の平均が170,038俵と落ち込んだにもかかわらず、急速な繭の減産の結果を受けて、1980年代後半の平均生糸生産量が129,122俵と大きく減少したので、その充足率は75%程度となり、不足分25%のうち約18%を輸入により、残り7%を滞貨生糸の放出ということで賄った結果、1989年末の事業団在庫生糸は14,032俵にまで減少した。

4. 絹の需給

近年のように、絹燃糸・絹織物・絹二次製品の輸入が増加すると、単なる生糸需給だけ

では需給の実態を反映できなくなる。

このため通商産業省や農林水産省農蚕園芸局では、生糸需給に絹撚糸・絹織物・絹二次製品の輸出入を加えた「絹の需給表」を公表している。

添付の資料は、1979年までを通商産業省資料、1980年以降を農林水産省資料により作成したものであるが、これによると、生糸・絹撚糸・絹織物・絹二次製品などの輸出入を相殺した総需要のうち、純内需の占める割合は、1965年（昭和40年）の86.5%から次第に増加して、第一次石油ショック直後の1972年（昭和47年）に98.1%となり、需要量のほとんど全部が純内需で占められるという状況を作り出していたが、その後1976年から1960年までの10年間は、その割合が次第に減少して1960年に91.5%となったものの、その後は再び内需の占める割合が増加して、1989年（平成元年）には95.3%となっている。

また、輸出入のバランスを見ると、1967年以来、圧倒的な輸入超過の事態が続いている。

更に需要量の推移を見ると、昭和40年(1965)32万俵であったものが、第一次石油ショック直後の昭和47年(1972)に約54万俵となり、そのほとんどが、純内需で占められる事になった。だがその後次第に減少して、昭和61年(1986)には30万俵にまで落込み、その後やや回復して、平成元年(1989)には34万俵になっている。

なお、この間の生糸生産は、昭和44年(1969)に36万俵弱を記録した後、昭和50年(1975)まで30万俵台を維持したものの、1976年以降、急速に減少しつつあることは、既に見た通りである。

この様な経過を見ると、全体的な流れとしては、前に見た生糸需給の動きとそれ程大きな違いはない。

ただ、1989年の生糸の純内需が14万俵強であるのに、絹需給から見たそれは34万俵となっており、単純に差引計算を行うと約20万俵が輸入によって賄われていることになり、最近の消費動向は、輸入品の動向によって大きく左右されることを示している。

なお、国内生産と輸入量の比率が逆転したのは昭和61年(1986)であり、その後年々、輸入依存度が高まる傾向がみられる。

5. 生糸消費量調査

生糸の需要動向を示す統計資料としては、農林水産省が公表する生糸需給統計と絹の需給統計の他に、蚕糸砂糖類価格安定事業団が公表する「全国織物産地実態調査」がある。

この調査から得られる需要動向も、全体の流れとしては、「生糸需給統計」や「絹の需

給統計」から得られる需要動向と、ほぼ軌を一にするものであるが、この調査は、これが産地別・織物種類別に生糸の消費状況を調査したものであるだけに、「生糸需給統計」や「絹の需給統計」からは得られない生糸需要の変動要因を、ある程度追跡することができるという特色がある。

1960年代後半から1970年代初頭に掛けての「いざなぎ景気」は、主として内需の好調により、年率12%という高い成長率でわが国経済の発展をもたらしたが、わが蚕糸業界においても生糸需要が生糸生産を上回る活況を呈したことは、既に述べたところである。

ちょうどこの時期、1968年（昭和43年）から、事業団の「全国織物産地実態調査」が始められている。それから今日まで20年余に亘り、調査内容に多少の変動はあったものの、大勢としては殆ど連続した形でこの調査は進められてきている。

その資料によると、1970年（昭和45年）436千俵であった生糸消費量は、1972年に493千俵まで拡大した後、次第に減少して、1989年（平成元年）には219千俵になっている。20年の間に丁度半減したことになる。

生糸需給統計では同じ期間に純内需の数量は63.3%減少して1/3強に、絹の需給統計による純内需は、1989/1970で83.3%となり、2割弱の減少に過ぎない。

用途別には和装需要が最も大きく、1970年当時376千俵で全体の86.2%を占めていたが、1989年には171千俵とほぼ半減したにもかかわらず、まだ78%のシェアを占めている。次に大きなシェアを占めるのは洋装並びに洋品雑貨であるが、両者を合しても1970年当時の消費量は24千俵、構成比としては5.4%に過ぎず、その構成比は1989年には13.6%とかなり大きくなっているものの、消費量としては両者合せて29千俵に過ぎない。

つまり、今日においても、昔から言われてきた通り、依然として、和装需要の動向が生糸の需要動向を左右するという現実には変わりはない。

和装用需要の動きを年を逐ってみると、昭和47年(1972)に444,458俵と最高を記録した後、昭和54年(1979)までは年率3.8%、昭和55年(1980)から平成元年(1989)までは、年率6.4%というスピードで減少している。

これに対して洋装用需要は、1971~75年の平均5,300俵から1982年には14,113俵まで増加したが、1983~87年は1万俵台で推移し、1988年以降再び増加傾向を示している。また洋品雑貨は主としてネクタイとスカーフに当てられるものであるが、1970年代はほぼ横這い、80年代前半にやや落ち込み、80年代後半に盛り返すという動きを見せている。

6. 和装需要

「全国織物産地実態調査」では、和装需要は『白生地』『先染着尺』『帯地』『和装小物』に分類調査されているが、和装需要の2/3強が白生地であり、その比率はこの20年間を通じてほとんど変わりが無い。これに対して先染着尺は、昭和44年(1969)に18.2%を占めていたものが、平成元年(1989)には7.1%に低下しており、帯の占める比率は昭和44年(1969)の13.8%から平成元年(1989)には19.4%に増加している。

数量的にみると、白生地及び先染着尺の減少が甚だしく、1970年と1989年の対比では、白生地は46.5%、先染着尺は18.9%に落ち込んでおり、帯地が63.9%に止どまり、和装小物がほぼ横這いであるのに比べると、その減少の大きさが目立つ。

つまり、和装需要の減少は、白生地及び先染着尺の減少に起因するものであることを示している。

その要因の一つに、昭和50年(1975)までは、和服の消費者物価指数が洋服のそれと平行して推移していたが、昭和51年(1976)以降は、洋服を上回る高い上昇傾向を示したことにありとも言われている。

また和装需要の減退は、明治以来続けられてきた洋風化の歴史の必然であり、昭和40年代後半(1970年代前半)に和装需要が増加したのは、それまでの他繊維による着物の需要を絹が奪ったため、他繊維の分野を蚕食し終わった現在、和装の需要減がそのまま絹の需要減退に結び付いたとの説をなすものもある。

後染生地としての白生地には多くの種類があり、時代によって織られるものは違うが、事業団の調査報告の中から比較的糸消費量が多く、また調査期間を通じて計上されている織物をリストアップしてみると、正絹表地としての「紋意匠」「一越」「変り無地」「綸子」「駒綸子」「紹・紗」「羽二重」などがある。このうち、紋意匠と駒綸子を除く他の織物は、いずれも70年代前半にピークを迎え、その後次第に減少しているが、駒綸子は他の織物がピークを迎えた70年代前半から一貫して減少を続け、紋意匠は他の織物よりも遅れて、70年代後半に掛けてピークを迎え、80年代に入って減少傾向に変化している。

それぞれの織物について、最盛時の糸消費量に対する1989年の比率を算出してみると、紋意匠が23.6%、一越が3.6%、変り無地が49.5%、綸子が24.4%、駒綸子が1.4%、紹・紗が52.8%、羽二重が22.8%となっており、これを20年前の1969年と比較すると、紋意匠が66.4%、一越が4.4%、変り無地が80.0%、綸子が27.9%、駒綸子が1.4%、紹・紗が104.5%、羽二重が37.4%となる。

このことから、この20年間に最も減少の激しいのが駒絵子であり、一越もほぼこれに匹敵する勢いで減少していることが判る。次に減少しているのが絵子で、最盛時に比べてもまた20年前に比べてもほぼ1/4の水準に減少している。

羽二重も最盛時の約1/5になっているが、20年前に比べると4割弱の水準に止どまっており、紋意匠は最盛時にくらべると1/4以下に減少したとはいえ、20年前に比べると2/3の水準にあり、変り無地は最盛時の約半分ながら、20年前の80%の水準を保ち、縞・紗は最盛時の半分ながら、20年前の水準を保持している。

つまり一口に白生地といっても織物の種類によって、その動きには変化があるということで、おそらく消費者の嗜好の変化に拠るものと思われるが、今の所、その理由を明らかにすることは出来ない。

また、急速な減少を見せた先染着尺についてみると、「お召し」「紬・緋」「コート地」などの表地、裏地、交織生地のすべてが急速に減少していることが分かる。

先染の正絹表地の生糸消費量の7割前後は「お召し」と「紬・緋」が占めるが、共に急速な減少を続けており、特に「お召し」の減少速度が大きい。

7. 洋装需要

洋装需要は、昭和51年(1976)に10千俵の大台を越え、昭和57年(1982)には14千俵まで増価したものの、昭和58年以降は10千俵ラインで低迷している。しかし和装需要が急速に減少しているため、相対的に洋装の比重が高まっているにすぎないことが判る。ただここ2～3年の傾向として、後染、先染の服地を中心に増加傾向が見られることに注目したい。

洋品雑貨は、ネクタイとスカーフ類が中心で、ネクタイ需要は緩やかな増減はあるもののほぼ1万俵前後の水準で推移している。これに対してスカーフはファッションに左右されることが多いため、昭和50年代初頭のスカーフ流行期に2～3千俵の消費がみられた後、低迷していたが、昭和60年代に入り、再びスカーフが流行し始めたのにもなって、生糸消費も増えている。

7. 家計調査から見た絹需要

最近の蚕糸関係文書の冒頭には、ほとんどと言って良いほど『国民の生活様式の変化により』というような枕詞が付く場合が多い。

その『国民の生活様式の変化』とはどの様なものであろうか。それを示す資料の一つに総務庁統計局（もと総理府統計局）の家計調査がある。

経済白書が「もはや戦後ではない」と述べ、それが流行語となったのは昭和31年の事であるが、この家計調査によって、消費動向の変化を見ると、この頃から、それまでの生存条件としての衣食住を中心とした生活から、生活重視のゆとりを求めたライフ・スタイルに転換していることが窺われる。

添付の「消費支出の年次別推移」には統計の連続性に問題があるで掲載しなかったが、昭和26～29（1951～54）年に消費支出の45～50%、平均47.6%を占めた食糧費は、1960年代前半には約36%、1970年代前半には約30%の水準になり、1985年には25%になっている。

また1950年代前半にはほぼ14%であった被服費は、1970年代前半には10～11%、1985年には7%になっている。ただ衣食住のうちの住居費は、1950年代前半に約5%であったものが、その後もほぼ同水準で推移している。その反面、この間に増加したのものとしては、交通通信費、教育費、教養娯楽費、そして交際費を含む「その他の消費支出」である。

つまり、「もはや戦後ではない」と言われて始まった1960年代からこの方、ゆとりのある、生活重視のライフ・スタイルへの傾斜は、より弾みを付けながら続いており、そのニーズが教育とか、教養娯楽という方向に向かっていることを示している。

被服費の対消費支出並びに対可処分所得比率の推移を収入五分位階層別にみると、第Ⅰ階層では昭和49年(1974)頃まで消費支出の10%前後を占めていたものが、昭和50年(1975)以降、年々比重が低下して、昭和60年(1985)には6%になっている。可処分所得でみれば、昭和26年(1951)18%を占めていたものが、1980年代になると5%台になっている。

第Ⅱ階層、第Ⅲ階層、そして第Ⅳ、第Ⅴ階層についても、その推移を見ると、第Ⅰ階層にほぼ似通った動きがみられる。

また、収入五分位階層別に被服費の対消費支出並びに対可処分所得比率をみると、各年次を通じて、収入の大きい階層ほど消費支出あるいは可処分所得の中に占める被服費の割合が大きい。各階層の所帯員数は収入の大きい階層ほど大きいという傾向はあるが、どの年次をとってみても、その差が1.5倍を超えることはない。にもかかわらず、第Ⅰ階層と第Ⅴ階層の間には、被服費の額が3倍から5倍でいどの開きがみられる。それが数量差に

よるものか、品質差によるものかはこの表で読み取るわけには行かないが、一つの傾向として、注目に値する。

次に被服関係支出が何に当てられているかを見たのが、「被服及び履物支出の年次別推移」の表である。

昭和38年(1963)から昭和61年(1986)までの24年間の動きを示すものであるが、当初27%前後であった洋服の比率が、昭和61年(1986)には40%近くにまで増加し、また、当初8%弱であったシャツ・セーター類が17%まで増加している反面、当初16%強であった生地・糸類が5%弱にまで落ち込んでいるのが目に付く。下着類はほとんど変化がなく、おおむね8%前後の水準を推移している。

そして和装はどうかというと、昭和40年(1965)まで9%程度であったものが、41年から45年に掛けて11.5%に増加し、その後次第に減少しながら昭和51年(1976)まで10%台を維持したものの、昭和61年(1986)には7.7%に落ち込んでいる。

先にみた織物産地用途別生糸消費状況で、1976年以降、和装需要が減退傾向に向かったのと、軌を一にしているといえよう。

なお、近年の着物価格の上昇を考え合わせると、数量的には、支出額の減退を更に上回るものがあると考えざるを得ない。

和装需要が高かった昭和46年(1971)と最近時点の昭和61年(1986)の被服支出の内容を比較すると、和服支出は11.5%から7.7%に、また生地・糸類が12.9%から4.6%に、帽子ネクタイなどの「他の被服」が7.4%から6.4%に減少している反面、洋服が30.5%から38.9%に、シャツ・セーター類が11.2%から17.0%に、下着類も8.1%から8.4%に増加している。

金額的にみると、和服支出は11,957円から19,173円に60%ほど膨らんでいる。その増加は、主として「婦人絹着物」と「婦人帯」で、両者合わせて6,051円の増加であり、和服支出の増加額7,216円の84%を占める。ところがこれを数量で見ると、「婦人絹着物」は金額が倍増しているにもかかわらず、0.145枚から0.068枚に減少している。半分以下ということになる。同様に「婦人帯」は、金額が10%増加して数量は33%になっている。

なお、絹以外の婦人着物は金額が32%、数量が13%になっている。

ちなみにこの数字から着物一枚当りの価格を逆算してみると、「婦人絹着物」は昭和46年の37,241円から61年には162,720円に4.36倍となっており、絹以外の「他の婦人着物」は4,585円から11,650円に2.55倍の上昇を示している。

また、洋服について1着当りの価格の動きを見ると、背広は27,260円が51,563円に1.89倍の上昇、婦人服は4,734円が17,988円に3.80倍の上昇を示しているが、支出額は背広が2.2倍、婦人服は3.38倍になっている。

洋服の支出は昭和46年(1971)の31,759円から昭和61年(1986)には96,970円と3倍強の伸びを示しているが、その増加額65,211円の過半を占めるのが婦人洋服で、38,720円増加しており、男子洋服の増加額20,722円を上回っている。このことは、最近の女性の社会進出というファッションの反映といえよう。

なお、注目すべき現象として、シャツ・セーター類の支出は3.6倍、金額にして30,784円の増加となっているが、中でも婦人シャツ・セーター類の支出が4.7倍に増加し、金額では18,408円の増加を見せていることである。そしてその中にはブラウスが数量で約2倍、金額で7倍近くになっていることは、今後シルクブラウスの動向を考える上で、一つの示唆を与えるのではなからうか。

一所帯当たりの和服等購入状況の推移を見ると、婦人絹着物の購入数量は、1970年代に0.13～0.16枚の水準にあったが、1980年代になると、年々減少している。

また、昭和45年から61年までは婦人着物の中で婦人絹着物が特掲されているが、これによって絹着物の支出割合を算出して見ると、昭和45年に75%であったものが、47年には80%、48年には86%、51年には90%、57年には95%というように、年を逐うに従って、婦人の着物支出の中に占める絹着物の支出割合が高くなっている。絹の着物と絹以外の着物との間の価格差もあるが、着物は絹でという考えが広まりつつある証差ともいえよう。

また、一所帯当たりの洋服等購入状況を見ると、男子洋服の主流である背広の数量が、昭和38年から52年までの間に1.5倍になり、その後一時購入量が減少したものの、昭和60年代に入り、再びやや増加の傾向を見せている。

これに対し、婦人洋服は、昭和38年から昭和53年間で間に3.6倍になり、その後次第に減少して昭和63年には53年の74%になったが、38年対比では2.7倍の水準になっている。

更にブラウスについてみると、昭和38年の1.3枚から53年には2.29枚となり、1.7倍の増加を見た。その後やや減少したが、昭和63年の時点では、1.86枚で53年対比81%、38年対比1.4倍となっている。

ちなみにこの表から年次別のブラウスの価格を逆算し、その上昇率を見てみると、昭和40～44年は平均4.4%、昭和45～49年は14.4%、昭和50～54年は10.9%、昭和55～59年は3.7%、昭和60～63年は5.2%である。つまり、価格上昇のパターンと購入数量の増減と

は関係なしに動いていることになり、近年の女性の社会進出が購入数量増減の主因と成っているものと考えるのが妥当であろう。

8. 絹素材に関するアンケート

このアンケートは、平成 2年10月、全国絹需要増進協議会が開催したアパレル関係者に対する研修会の参会者に対して行ったものである。

従って質問の内容も回答も一般消費者とは異なるが、絹を製品化し、一般消費者に供給する立場にある人たちの意見として、受け止めてほしい。

先ず、「今までに絹を素材とした商品を作成したことがあるか否か」という質問に対しては、83%が作ったことがあると答えている。

また「その商品は何か」という質問に対しては、ブラウスを挙げたものが最も多く、50%に達している。次に多いのがスーツで、以下ワンピース、ジャケット、スカート、コート、パンツ、セーター、ツーピース、Tシャツ、ランジェリー、カーディガンと続く。その製品の種類は、アウトサイドからインナーまで、多岐に亘っている。

次の質問、「絹を素材とする商品を作る上で困ったこと、難しかったことは」という設問に対して、最も多かったのは、縫製が難しいということであった。この難しさというのは、オートクチュールに於ける難しさということもあろうが、プレタ・ポルテに於ける難しさを意識したものの様である。デザイナーがデザインし、パタンナーがパターンを起こしても、それを十分にこなして生産してくれる工場がないという感じが強い様である。

また製造工程に関連するものとして、裁断の難しさを挙げたものも2/3に達した。

次に挙げられたのが価格問題である。素材の価格が高いため、気安く取り扱うことが出来ないし、商品価格の設定にも困るという事である。

また商品管理の面で困ったという回答も意外に多く36%に達している。絹は取り扱いにくい商品で、飾っているうちに変色したり、消費者のクレームに対応し切れないというものの様である。

更に注目すべき問題点として、素材が安定的に入手出来ないという回答が20%あった。せっかく商品を開発しても、同じ生地が同じ価格で入手出来ないというクレームである。もうその生地はありませんとか、値段が変わりましたというのでは安心して使っておれないということで、アパレルサイドからみれば絹素材を使うのにためらいを生ずることになる。

第4問は、「今後絹を取り扱うに当たって知りたい情報は何か」というものであるが、この設問に対する要望としては、絹素材の特性や取り扱い方法に就いての情報、パターンの起こし方や裁断・縫製に就いての情報、絹製品の取り扱い方法に就いての情報、新素材に就いての情報、取り扱いやすい絹の開発に就いての要望、価格情報、海外情報などが求められている。

更に、「絹を素材とする商品を増やし、或いはより良いものにするための提言」を求めたところ、消費者啓蒙を含めたマーケティング戦略の確立、身近な素材としての絹の改良、染色性を含めた品質の安定などの意見が寄せられた。

このうち消費者啓蒙に就いては、絹のメリットばかりをいうのではなく、デメリットもはっきり知らせることによって、取扱上のトラブルを少なくすることが出来るのではないかという考えがあり、また身近な素材という点では、洗濯の手軽さを求める声が多かった。

9. おわりに

以上、消費者の絹需要動向に関連する幾つかの資料を紹介したが、これらの資料から幾つかの問題点を見出すことが出来る様である。

先ず第一は、現在絹需要の主流を成すものは、和装需要であるが、これが年々減少する傾向にあるということである。家計調査の累年の傾向から見ても明らかな様に、着物需要が絹の着物に置き換えられるという傾向は見られるものの、消費支出の比重が衣食住という生存要素から、教養娯楽や教育など、いわばゆとりの部分に向けられる割合が高まりつつある中で、被服関係費用はその割合を減少させつつあるという実態がある。

そして被服関係支出の中では、婦人洋装関係費用の伸びを中心とする洋装関係費用の増加と和装関係費用の減少という傾向が定着しつつある。

この様な状態を反映して、和装関連の生糸消費も年々減少を続けているのが現状である。従ってこのまま放置すれば、和装需用を中心とする絹需用は、年々減退せざるを得ないことになる。

だが一方、絹の需給統計にみるように、平成元年(1989)の純内需は 325千俵という大きな数字を示している。ちなみに、この数値と、戦前のわが国蚕糸業最盛時に当る昭和 5年(1930)から昭和 9年(1934)の数値との比較を行ってみると、この期間の生糸生産量から輸出量を差引いた数量の平均値は 186,760俵となる。勿論、この中には絹織物その他加工輸出されたものも含まれているわけであるから、当時の純内需と現在の純内需を比べると、

ほぼ2倍近い水準になっているとすることができよう。

当時はまだ着物全盛の時代であったわけであるから、その殆どが和装需要に当てられたものと見ることができるが、それでも現在の和装用生糸需要量を下回ることになる。

逆に言えば、現在は着物素材としては、絹がその殆どをしめる、言わば独占時代にあるわけで、和装需要の減退がそのまま生糸消費の減退に繋がるというパターンを生み出していることになる。

この様な状況の中で、今後、絹の消費を増やして行こうとするならば、まずは婦人の洋装を中心とする洋装分野での絹需用の拡大を図ることであり、今一つは、和装・洋装を問わず、「ゆとりある生活」の「ゆとり」の中に絹を溶け込ませることに力を注がねばならない。

今、洋装分野での需用拡大のネックとなっているのは、絹製品が高価であることもさりながら、むしろ、取扱の難しさである。

アンケートの要望にもあった様な、絹を身近なものとして取り扱うことができるような材質の変化、例えば、黄褐変の防止であるとか、水洗いしても縮まない防縮性の付与とか、染色堅牢度の向上とか、絹本来の優れた性質を損なうこと無く、これらの性質を付与することが出来るならば、消費者が求めている「ゆとりある生活」の場の衣料として、洋装分野で絹がもてはやされることとなるのは必定である。

その第二は供給の問題である。

絹の需給のところで見たとように、現在、生糸換算で30万俵を越える需要があるにもかかわらず、国内の生糸生産量は僅かに10万俵で、需要量の2/3を輸入に頼っている。

わが国に技術がないと言うならともかく、わが国の蚕糸技術は、蚕種の生産から、養蚕、製糸を通じて、未だに世界一の水準にある。問題は、日本経済の繁栄の齎寄せとしての価格上昇の結果、生産手段、労賃の高騰を招き、海外からの輸入攻勢に勝てず、経済的に採算が合わないために、養蚕基盤が失われて、蚕糸業そのものが、崩壊しつつあるということである。

海外からの価格競争に負けない繭生産態勢の確立は、従来の個別農家に依存する形では極めて困難であるとしても、生産態勢の変化などにより、まったく可能性がないとは言いつても切れない。

繭の供給態勢の確立は、当面の緊急課題であるが、今一つ大事なことは、アパレル関係者に、常に安心して絹素材を使って貰える態勢を整備することである。繭も糸も織物もそのままでは消費者の物の用には立たない。現在の業界では、この事が忘れられているよう

に思われてならない。

原料の繭から糸、そして織物からアパレルに至る一貫した生産・流通態勢の整備を行い、消費者のニーズに応える絹製品を、適正な価格で市場に供給することが出来るならば、ファッションの流れが、地球環境の保全と言う命題を通して、自然への関心の高まって居る現在、前途に光明を見出すことも不可能ではないと思われる。

蚕糸業の推移 単位：ト、俄、円

	繭生産量	生 糸					期 末 在 庫	生 糸 価 格	
		生産量	輸入量	輸出量	国内引渡	純 内 需			
1960	35	111,208	300,796	-	88,323	256,913	183,086	17,107	3,411
61	36	115,287	311,311	-	70,101	245,257	193,729	13,030	3,892
62	37	109,066	331,601	1	77,448	254,861	199,331	12,323	4,631
63	38	110,916	301,318	66	57,806	234,234	203,935	21,667	5,611
64	39	111,648	324,306	429	37,259	283,968	247,227	25,175	4,327
65	40	105,513	318,438	5,451	17,285	316,136	289,932	15,643	5,185
66	41	105,392	311,572	20,665	8,790	323,673	299,419	15,417	6,261
67	42	114,476	315,435	30,002	3,729	342,387	323,374	14,738	7,499
68	43	121,014	345,913	21,824	9,436	343,368	324,799	29,671	6,835
69	44	113,996	358,090	43,726	3,072	405,038	381,721	23,377	6,598
70	45	111,736	341,924	65,978	1,242	407,569	392,998	22,468	8,075
71	46	107,694	328,071	98,510	1,146	407,835	396,531	40,068	7,145
72	47	105,110	318,945	168,641	355	503,513	493,414	23,786	7,755
73	48	108,156	321,943	143,341	146	455,689	447,000	33,235	11,927
74	49	101,948	315,603	98,677	786	363,560	355,368	83,169	9,897
75	50	91,219	336,146	41,078	-	389,281	381,865	71,112	11,395
76	51	87,838	298,078	35,819	-	357,217	345,726	47,792	12,437
77	52	79,262	268,036	55,918	-	293,408	279,350	78,343	13,134
78	53	77,588	265,959	83,833	-	352,546	338,168	75,589	14,758
79	54	81,264	265,829	60,467	-	299,724	284,012	102,161	14,825
80	55	73,061	269,247	49,398	-	262,619	247,056	158,387	14,642
81	56	64,787	247,012	15,254	-	250,254	230,996	170,399	14,241
82	57	63,332	216,542	38,252	-	265,649	243,696	159,544	14,861
83	58	61,141	207,611	40,479	-	220,369	195,907	187,265	13,911
84	59	50,352	179,662	25,358	-	202,007	177,392	190,278	13,474
85	60	47,274	159,859	34,964	-	218,224	191,060	166,877	12,365
86	61	41,465	139,013	32,616	-	176,342	152,172	162,164	12,254
87	62	34,726	131,073	24,280	-	178,795	156,288	138,722	10,380
88	63	29,590	114,362	32,612	-	225,580	206,246	60,116	12,636
89平	1	26,819	101,301	34,127	-	160,171	144,422	35,373	15,322

生 糸 需 給 (歴 年)

単位：俵

		生産数量	放出数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	棚上数量	期 末 在 庫	
								市中在庫	棚上在庫
1950	25	176,993	-	-	94,621	132,792	-	15,115	-
	51	215,268	-	-	68,379	144,834	-	17,171	-
	52	256,687	-	-	70,185	191,976	-	11,697	-
	53	250,721	-	-	63,422	187,987	-	11,009	-
	54	257,915	-	-	75,986	179,790	-	13,148	-
	55	289,476	-	-	86,514	199,017	29	17,064	29
	56	312,787	-	35	75,366	232,439	5,373	16,708	5,402
	57	314,775	-	-	73,886	237,828	3,525	16,244	8,927
	58	333,573	-	-	46,759	203,629	83,799	15,630	92,726
	59	318,677	58,130	-	89,577	275,910	12,508	14,443	47,104
1960	35	300,796	46,884	-	88,323	256,913	-	16,887	220
	61	311,311	190	-	70,101	245,257	-	13,030	-
	62	331,601	(廃棄 30)	1	77,448	254,861	-	12,323	-
	63	301,318	-	66	57,806	234,234	1,350	20,317	1,350
	64	324,306	8,890	429	37,259	283,968	16,245	16,470	8,705
	65	318,438	5,360	5,451	17,285	316,136	1,225	11,073	4,570
	66	311,572	4,570	20,665	8,790	323,673	-	15,417	-
	67	315,435	-	30,002	3,729	342,387	-	14,738	-
	68	345,913	2,680	21,824	9,436	343,368	7,400	24,951	4,720
	69	358,090	16,990	43,726	3,072	405,038	13,230	22,417	960
1970	45	341,924	808	65,978	1,242	407,569	-	22,316	152
	71	328,071	164	98,510	1,146	407,835	19,809	20,271	19,797
	72	318,945	19,805	168,641	355	503,513	8	23,786	-
	73	321,943	-	143,341	146	455,689	-	33,235	-
	74	315,603	-	98,677	786	363,560	60,013	23,156	60,013
1975	50	336,146	41,175	41,078	-	389,281	35,255	17,019	54,093
	76	298,078	53,063	35,819	-	357,217	22,960	23,802	23,990
	77	268,063	12,243	55,918	-	293,403	52,239	14,357	63,986
	78	265,959	86,481	83,833	-	352,546	72,789	25,295	50,294
	79	265,829	25,768	60,467	-	299,724	58,210	19,425	82,736
1980	55	269,247	-	49,598	-	262,619	60,508	15,143	143,244
	81	247,012	6,265	15,254	-	250,254	21,193	12,227	158,172
	82	216,542	39,655	38,252	-	265,649	23,813	17,214	142,330
	83	207,611	20,329	40,479	-	220,369	52,587	12,677	174,588
	84	179,662	32,352	25,358	-	202,007	37,140	10,902	179,376
1985	60	159,859	34,880	34,964	-	218,224	10,820	11,561	155,316
	86	139,013	31,822	32,616	-	176,342	26,665	12,005	150,159
	87	131,073	36,214	24,280	-	178,796	15,420	9,357	129,365
	88	114,362	101,781	32,612	-	225,580	16,905	15,627	44,489
	89	101,301	53,123	34,127	-	160,171	22,666	21,341	14,032

絹の需給 (暦年)

単位：俵

	供 計	給			需 計	要		期 末 在 庫
		初在庫	生産	輸 入		輸 出	内 需	
1965 40	454,097	135,659	318,438	6,381	322,200	43,489	278,711	131,897
66 41	443,469	131,897	311,572	24,048	284,881	33,044	251,837	158,588
67 42	474,023	158,588	315,435	43,856	307,099	22,742	284,357	166,924
68 43	512,837	166,924	345,913	46,522	352,296	28,005	324,291	160,541
69 44	518,631	160,541	358,090	65,244	376,338	26,389	349,949	142,293
70 45	577,474	142,293	341,924	93,257	406,156	15,813	390,343	171,318
71 46	622,916	171,318	328,071	123,527	405,297	12,450	392,847	217,619
72 47	743,247	217,619	318,945	206,683	538,061	10,454	527,607	205,186
73 48	732,541	205,186	321,943	205,412	509,790	8,835	500,955	222,751
74 49	682,709	222,751	315,603	144,355	432,823	8,978	423,845	249,886
75 50	747,943	249,886	336,146	161,911	462,090	7,416	454,674	285,853
76 51	753,356	285,853	298,078	169,325	478,597	11,491	467,106	274,659
77 52	699,600	274,659	268,036	156,905	422,640	13,853	408,787	276,960
78 53	753,690	276,960	265,959	210,771	479,151	14,378	464,773	274,539
79 54	732,591	274,539	265,829	192,223	429,380	15,712	413,668	303,211
80 55	730,276	303,211	269,247	157,818	405,039	15,563	389,476	325,237
81 56	681,105	325,237	247,012	108,856	351,557	19,258	332,299	329,548
82 57	674,103	329,548	216,542	128,013	367,092	21,953	345,139	307,011
83 58	647,091	307,011	207,611	132,469	316,459	24,462	291,997	330,632
84 59	633,026	330,632	179,662	122,732	304,081	24,615	279,466	328,945
85 60	624,192	328,945	159,859	135,388	319,398	27,164	292,234	304,794
86 61	597,661	304,794	139,013	153,854	300,197	24,170	276,027	297,464
87 62	603,000	297,464	131,073	175,000	340,000	22,507	317,000	264,000
88 63	567,000	264,000	114,362	188,000	376,000	19,334	357,000	191,000
89 1	505,000	191,000	101,301	213,000	341,000	15,749	325,000	164,000

全国絹織物産地用途別生糸消費量

単位：俵

	総数	輪網用	和装用	布団類	洋装用	洋品 雑貨	装飾用	工業 用	縫糸用
1969	44 423,770	20,082	365,621	536	5,562	9,929	4,567	801	16,762
1970	45 436,405	15,323	375,975	683	9,365	14,509	5,317	334	14,699
71	46 432,461	9,918	385,709	602	5,492	12,452	4,433	390	13,465
72	47 492,966	10,207	444,458	594	4,687	13,473	4,771	342	14,434
73	48 482,526	9,244	437,720	616	6,185	11,248	3,544	374	13,595
74	49 409,970	8,144	366,163	550	4,882	13,644	5,289	289	11,009
75	50 446,269	6,637	395,634	706	6,894	10,366	5,093	306	11,633
76	51 436,067	7,277	386,765	3,283	11,896	14,491	2,877	155	9,323
77	52 405,722	7,998	359,546	1,623	10,806	13,409	3,337	275	8,728
78	53 400,695	9,850	351,936	1,649	12,952	12,881	2,882	325	8,220
79	54 382,235	10,465	334,136	1,816	13,001	11,674	2,911	318	7,914
80	55 352,064	8,490	309,021	1,347	11,798	12,306	2,678	266	6,158
81	56 326,488	9,587	283,713	1,527	13,276	10,204	2,310	175	5,696
82	57 319,667	9,232	277,372	1,424	14,113	9,584	2,523	264	5,155
83	58 289,939	15,417	244,975	1,474	10,075	11,062	1,956	292	4,688
84	59 273,022	15,271	227,813	1,348	10,549	11,640	1,799	177	4,425
85	60 265,603	16,079	218,682	1,400	10,687	12,611	1,718	158	4,268
86	61 244,746	14,850	198,139	1,305	10,570	13,747	1,920	160	4,055
87	62 223,619	13,092	177,747	1,238	10,309	14,676	2,380	137	4,040
88	63 234,691	12,465	184,462	1,187	11,485	18,108	2,750	114	4,120
89	1 218,778	10,459	170,578	1,258	12,849	16,873	2,979	110	3,672

全国絹織物産地・和装用生糸消費量

单位：俵

	生 糸 消 費 量 (单位：俵)					同左指数 (1970=100)			
	総 数	白生地	先染着尺	帯地	和装小物	総	先染	帯	小物
1969 44	365,621	241,683	66,703	50,457	6,688	95.4	104.2	97.5	98.6
1970 45	375,975	253,440	64,023	51,731	6,781	100.0	100.0	100.0	100.0
71 46	385,709	273,235	56,211	48,467	7,796	107.8	87.8	93.7	115.0
72 47	444,458	309,789	57,981	69,088	7,600	122.2	90.6	133.6	112.1
73 48	437,720	317,880	57,457	55,261	7,122	125.4	89.7	106.8	105.0
74 49	366,163	250,271	49,424	60,428	6,040	98.7	77.2	116.8	89.1
75 50	395,634	264,439	53,248	69,935	8,012	104.3	83.2	135.2	118.2
76 51	386,765	265,102	46,719	70,889	4,055	104.6	73.0	137.0	59.8
77 52	359,546	238,569	44,843	68,446	7,688	94.1	70.0	132.3	113.4
78 53	351,936	246,750	38,941	58,535	7,710	97.4	60.8	113.2	113.7
79 54	334,136	236,522	36,275	53,188	8,151	93.3	56.7	102.8	120.2
80 55	309,021	218,554	32,229	51,202	7,036	86.2	50.3	99.0	103.8
81 56	283,713	195,781	31,293	50,033	6,606	77.2	48.9	96.7	97.4
82 57	277,372	195,076	28,369	46,808	7,119	77.0	44.3	90.5	105.0
83 58	244,975	165,732	27,821	45,033	6,389	65.4	43.5	87.1	94.2
84 59	227,813	155,035	24,562	41,791	6,425	61.2	38.4	80.8	94.8
85 60	218,682	151,344	21,089	39,260	6,989	59.7	32.9	75.9	103.1
86 61	198,139	137,983	16,764	37,139	6,253	54.4	26.2	71.8	92.2
87 62	177,747	122,832	14,066	34,409	6,440	48.5	22.0	66.5	95.0
88 63	184,462	131,795	13,533	32,284	6,850	52.0	21.1	62.4	101.0
89 1	170,578	117,957	12,117	33,066	7,438	46.5	18.9	63.9	109.7

全国絹織物産地・白生地用生糸消費量

単位；俵、%

	総数	正絹			絹交織地	指数(1970=100)		
		表地	裏地	長襦袢		表地	裏地	交織
1969 44	241,683	194,941	42,990	…	3,752	95.5	92.6	128.8
1970 45	253,440	204,098	46,428	…	2,914	100.0	100.0	100.0
71 46	273,235	207,599	61,870	…	3,766	101.7	133.3	129.2
72 47	309,789	229,327	77,000	…	3,462	112.4	165.8	118.8
73 48	317,880	241,370	72,650	…	3,850	118.3	156.5	132.1
74 49	250,271	187,739	60,514	…	2,018	92.0	130.3	69.3
75 50	264,439	184,028	79,352	…	1,059	90.2	170.9	36.3
76 51	265,102	181,428	82,688	…	986	88.9	178.1	33.8
77 52	238,569	153,254	84,414	…	901	75.1	181.8	30.9
78 53	246,750	166,813	54,454	25,106	377	81.7	117.3	12.9
79 54	236,522	164,892	49,566	21,466	598	80.8	106.8	20.5
80 55	218,554	157,316	44,643	16,115	480	77.1	96.2	16.5
81 56	195,781	134,061	45,336	15,521	863	65.7	97.6	29.6
82 57	195,076	131,835	47,370	14,793	1,078	64.6	102.0	37.0
83 58	165,732	112,893	37,027	15,067	745	55.3	79.8	25.6
84 59	155,035	104,241	38,894	11,214	686	51.1	83.8	23.5
85 60	151,344	100,209	38,785	11,725	625	49.1	83.5	21.4
86 61	137,983	90,977	35,845	10,589	572	44.6	77.2	19.6
87 62	122,832	80,581	31,910	9,840	501	39.5	68.7	17.2
88 63	131,795	88,148	32,809	10,320	518	43.2	70.7	17.8
89 1	117,957	78,989	28,683	9,766	519	38.7	61.8	17.8

全国絹織物産地・白生地用（正絹表地用）生糸消費量

単位：俵

		総数	紋意匠	一越	変無地	綸子	駒綸子	紹紗	羽二重
1969	44	194,941	23,437	19,188	33,513	40,992	42,350	7,122	3,676
1970	45	204,098	33,586	16,756	35,549	46,890	33,493	8,760	4,723
	71	207,599	38,366	20,172	41,642	44,656	25,944	9,721	5,086
	72	229,327	46,485	23,464	54,171	42,548	22,213	10,803	5,919
	73	241,370	59,743	20,965	47,331	37,778	23,540	13,106	6,021
	74	187,739	48,022	11,760	39,854	32,531	16,586	14,159	3,938
	75	184,028	64,176	14,071	25,786	28,349	10,464	7,631	4,368
	76	181,428	62,668	11,852	27,893	23,924	7,279	8,584	5,286
	77	153,254	56,997	8,977	28,852	16,245	4,720	8,555	4,371
	78	166,813	65,789	13,142	27,097	14,700	4,612	10,780	4,057
	79	164,892	65,958	11,649	32,020	11,296	4,510	11,860	3,632
	80	157,316	65,750	10,665	32,496	11,152	3,074	10,165	3,626
	81	134,061	56,672	11,019	24,396	11,086	2,179	7,962	3,028
	82	131,835	53,519	8,438	25,529	14,158	2,110	8,115	2,396
	83	112,893	41,464	6,555	23,055	15,332	1,686	7,279	2,137
	84	104,241	35,928	5,212	23,393	14,532	1,617	7,266	1,944
	85	100,209	27,178	4,780	24,542	17,015	831	7,321	2,065
	86	90,977	24,781	2,486	22,623	16,883	716	6,388	1,739
	87	80,581	20,351	1,291	20,958	12,083	679	6,024	1,605
	88	88,148	18,646	1,292	27,000	14,952	546	7,548	1,595
	89	78,989	15,572	842	26,811	11,420	580	7,470	1,375

全国絹織物産地・先染着尺用生糸消費量

単位：俵

	総数	正絹表地				正絹裏地	交織		
		御召	紬	絣	コート地				
1969	44	66,703	50,271	17,881	16,155	5,735	759	15,674	
1970	45	64,023	50,551	18,775	14,797	7,711	1,605	11,867	
	71	46	56,211	44,697	11,444	16,779	6,844	2,101	9,413
	72	47	57,981	44,897	11,230	18,147	6,585	2,705	10,379
	73	48	57,457	45,431	8,956	22,826	7,125	3,515	8,511
	74	49	49,424	41,443	8,945	22,755	2,669	2,933	5,048
	75	50	53,248	45,293	10,863	25,321	2,628	4,235	3,720
	76	51	46,719	42,736	8,168	24,846	2,752	1,775	2,208
	77	52	44,843	38,416	7,720	21,982	2,126	4,634	1,793
	78	53	38,941	32,967	4,727	18,633	2,010	4,493	1,481
	79	54	36,275	31,197	3,652	18,635	1,836	3,706	1,372
	80	55	32,229	27,193	2,880	17,121	1,641	3,109	1,927
	81	56	31,293	26,993	4,383	16,432	1,642	2,637	1,663
	82	57	28,369	24,137	4,225	14,968	1,168	2,756	1,476
	83	58	27,821	24,152	5,157	14,237	1,100	2,384	1,285
	84	59	24,562	21,525	4,705	12,617	845	2,306	731
	85	60	21,089	18,466	3,756	11,155	726	2,057	566
	86	61	16,764	14,703	2,624	9,106	689	1,557	504
	87	62	14,066	12,435	1,888	7,709	716	1,305	326
	88	63	13,533	11,669	1,876	6,754	685	1,577	287
	89	1	12,117	10,640	1,806	5,740	685	1,255	222

洋装用絹織物生地別生糸消費量

単位；俵

	総数	正絹後染				正絹先染			交織
		服地	グループ類	羽二重	服地	オーガンジー			
1969 44	5,562	2,060
1970 45	9,365	3,441
71 46	5,492	3,177	435	841	741	1,338	1,228	...	977
72 47	4,687	1,545	...	133	732	1,743	689	...	1,399
73 48	6,185	(4,027)	(2,158)
74 49	4,882	2,655	393	958	961	1,311	1,106	37	916
75 50	6,894	4,741	547	1,685	2,304	1,472	1,195	71	681
76 51	11,896	8,704	803	6,533	944	2,461	1,607	699	731
77 52	10,806	9,304	689	6,782	723	1,149	963	69	353
78 53	12,952	11,459	1,098	7,621	1,161	1,174	1,083	91	319
79 54	13,001	11,312	960	7,228	759	1,264	994	108	425
80 55	11,798	9,594	941	5,986	518	1,553	1,195	198	651
81 56	13,276	10,382	951	6,544	871	2,159	1,813	229	735
82 57	14,113	10,544	1,052	6,863	1,182	2,385	2,111	110	1,184
83 58	10,075	6,616	1,424	3,222	1,003	2,100	1,778	145	1,359
84 59	10,549	7,051	1,720	3,447	1,205	1,823	1,567	134	1,675
85 60	10,687	7,090	1,417	3,212	2,096	1,865	1,405	55	1,732
86 61	10,570	6,974	2,424	2,760	1,421	1,790	1,416	37	1,806
87 62	10,309	6,380	2,314	2,261	1,366	2,720	2,329	62	1,209
88 63	11,485	7,150	2,526	2,455	1,610	3,125	2,891	84	1,210
89 1	12,849	8,536	2,661	3,591	1,752	3,129	2,917	48	1,184

註 昭和44～45年は先染・後染の区分が、また昭和48年は正絹・交織の区分がない。

洋品雑貨用糸消費量

単位：俵

	洋品 雑貨	ネ	ク　　タ　　イ		スカーフ・マフラー			雑　貨 雑　品
			正　絹	交　織	正　絹	交　織		
1969 44	9,929	9,194	8,139	1,055	542	520	22	193
1970 45	14,509	13,916	12,947	969	560	552	8	33
71 46	12,452	11,177	10,103	1,074	1,227	1,116	111	48
72 47	13,473	12,014	10,860	1,154	1,416	1,393	23	43
73 48	11,248	10,330	9,476	854	883			35
74 49	13,644	11,811	9,750	2,061	1,820	1,802	18	13
75 50	10,366	16,147	13,587	2,560	3,203	3,079	124	16
76 51	14,491	11,732	11,528	204	2,725	2,423	302	34
77 52	13,409	10,867	9,012	1,855	2,490	2,465	25	52
78 53	12,881	9,670	8,202	1,468	2,574	2,297	277	637
79 54	11,674	8,999	7,756	1,243	1,697	1,624	73	978
80 55	12,306	10,366	9,087	1,279	1,142	1,135	7	798
81 56	10,204	8,129	6,840	1,289	1,244	1,035	209	831
82 57	9,584	8,121	6,720	1,401	935	908	27	528
83 58	11,062	8,676	7,242	1,434	2,060	2,057	3	326
84 59	11,640	9,284	7,718	1,566	2,012	2,009	3	344
85 60	12,611	9,769	8,085	1,684	2,486	2,482	4	356
86 61	13,747	10,050	8,369	1,681	3,367	3,363	4	330
87 62	14,676	10,273	8,623	1,650	4,068	4,064	4	335
88 63	18,108	12,067	10,502	1,565	5,691	5,687	4	350
89 1	16,873	10,823	9,591	1,232	5,706	5,699	7	344

戦後景気上昇局面の期間一覽

	谷	山	上昇 期間	平均 成長率	内需 寄与度	外需 寄与度
第 2 循環	1951年10月	1954年 1月	27月	12.7	14.7	△ 1.5
第 3 循環	1954年11月	1957年 6月	31	9.4	10.6	△ 1.0
第 4 循環	1958年 6月	1961年12月	42	11.5	13.5	△ 1.7
第 5 循環	1962年10月	1964年10月	24	9.9	10.9	△ 0.9
第 6 循環	1965年10月	1970年 7月	57	12.1	13.1	△ 0.9
第 7 循環	1971年12月	1973年11月	23	7.3	9.9	△ 2.4
第 8 循環	1975年 3月	1977年 1月	22	5.7	4.7	1.0
第 9 循環	1977年10月	1980年 2月	28	5.4	5.2	0.1
第10循環	1983年 2月	1985年 6月	28	5.0	3.5	1.4
第11循環	1986年11月	年 月		(5.7)	(6.4)	(△ 0.7)

資料；平成2年度経済白書

備考；

1. 経済企画庁；「国民経済計算」より作成
2. 第 1 循環は最初の谷が確認されていないので省いた
3. 上昇期間は、谷の翌月を1として数えたもの
4. 平均成長率は谷を含む四半期の実質G N Pと山を含む四半期の実質G N P（いずれも季節調整値）の平均伸び率を年率化したもの
5. 内外需寄与度；簡略化のため四半期の季節調整値での対前期比に対する寄与度の単純平均を年率化したもの（その和は平均成長率とは必ずしも一致しない）
6. 第11循環は1990年 1～3 月期までを計算
7. 上記中、第 3 循環期は「神武景気」、第 4 循環期は「岩戸景気」、第 6 循環期は「いざなぎ景気」と呼ばれるものである。

国民総支出

単位：10億円

	総額	食品 飲料 煙草	衣料 履物	家賃 水道 光熱	家具家 庭器具 家計雑費	医療 保健	交通 通信	レクリエ ション 娯楽 教育	その他
45	38,333	11,503	2,924	6,134	2,891	2,979	2,934	3,482	4,937
50	84,763	23,763	6,778	13,015	5,291	7,502	8,062	7,322	11,858
55	141,324	34,045	10,126	25,033	8,112	13,778	14,072	12,221	21,198
59	175,984	39,666	11,211	32,594	9,543	17,789	16,973	16,305	28,650
60	184,764	40,752	11,560	34,301	10,051	18,760	17,163	17,401	31,351
61	191,496	41,097	11,854	35,145	10,193	19,892	17,791	18,691	33,179
62	199,392	41,052	12,127	36,721	10,915	21,139	18,537	19,950	35,111

同上構成比

単位：%

	総額	食品 飲料 煙草	衣料 履物	家賃 水道 光熱	家具家 庭器具 家計雑費	医療 保健	交通 通信	レクリエ ション 娯楽 教育	その他
45	100.0	30.0	7.6	16.0	7.5	7.8	7.7	9.1	12.9
50	100.0	28.0	8.0	15.4	6.2	8.9	9.5	8.6	14.0
55	100.0	24.1	7.2	17.7	5.7	9.7	10.0	8.6	15.0
59	100.0	22.5	6.4	18.5	5.4	10.1	9.6	9.3	16.3
60	100.0	22.1	6.3	18.6	5.4	10.2	9.3	9.4	17.0
61	100.0	21.5	6.2	18.4	5.3	10.4	9.3	9.8	17.3
62	100.0	20.6	6.1	18.4	5.5	10.6	9.3	10.0	17.6

資料：日本統計年表

備考：経済企画庁「国民経済計算年報」

消費支出の年次別推移

単位：円

	38 (1963)	39 (1964)	40 (1965)	41 (1966)	42 (1967)	43 (1968)	44 (1969)	45 (1970)
消費支出	41,152	45,057	48,765	53,136	58,762	64,909	72,044	82,098
食料	14,968	16,191	17,633	18,668	20,284	21,871	23,648	26,500
住居	1,913	2,187	2,312	2,514	2,808	3,238	3,549	4,081
光熱水道	2,060	2,187	2,429	2,638	2,849	3,061	3,037	3,421
家具家事用品	2,433	2,487	2,613	2,913	3,565	4,425	4,219	4,592
被服履物	5,200	5,458	5,677	5,985	6,567	7,183	7,866	8,754
保健医療	918	1,098	1,204	1,259	1,371	1,637	1,935	2,132
交通通信	997	1,103	1,228	1,481	1,640	1,830	2,068	2,453
教養育	1,176	1,389	1,710	1,753	1,871	1,843	1,742	1,866
教養娯楽	2,812	3,067	3,166	3,720	4,103	4,486	5,268	6,373
交際費	2,380	2,676	2,910	3,250	3,708	4,164	4,762	5,725
その他雑費	6,295	7,214	7,883	8,955	9,996	11,171	13,949	16,201

	46 (1971)	47 (1972)	48 (1973)	49 (1974)	50 (1975)	51 (1976)	52 (1977)	53 (1978)
消費支出	90,913	99,318	117,158	142,203	166,032	180,663	197,937	208,232
食料	28,622	30,749	35,249	43,819	49,828	54,386	57,956	60,200
住居	4,478	5,092	5,817	7,398	7,993	8,972	9,727	10,113
光熱水道	3,746	3,946	4,539	5,537	6,860	7,694	8,820	9,363
家具家事用品	5,564	5,662	6,346	7,348	7,876	8,404	9,019	9,397
被服履物	9,691	10,615	13,079	15,430	17,190	16,134	16,645	16,778
保健医療	2,401	2,614	3,109	3,379	3,957	4,581	4,826	5,187
交通通信	2,706	3,171	3,633	4,222	4,940	12,442	15,506	16,837
教養育	2,097	2,245	2,539	3,089	3,686	5,554	6,370	7,097
教養娯楽	6,823	7,648	9,180	11,205	13,701	14,892	16,156	17,076
交際費	6,486	7,453	9,121	11,372	13,451			
その他雑費	18,229	20,124	24,548	29,404	36,550	47,604	52,913	56,182

	54 (1979)	55 (1980)	56 (1981)	57 (1982)	58 (1983)	59 (1984)	60 (1985)	61 (1986)
消費支出	222,438	238,126	251,275	266,063	272,199	282,716	289,489	293,630
食料	62,064	66,245	69,032	71,046	72,099	73,669	74,369	74,889
住居	10,648	11,297	11,956	12,601	12,929	13,551	13,748	14,215
光熱水道	9,850	12,693	14,757	15,229	15,774	17,044	17,125	16,912
家具家事用品	10,176	10,092	10,618	11,061	11,216	11,666	12,182	11,888
被服履物	17,587	17,914	18,417	18,915	18,910	19,236	20,176	20,554
保健医療	5,616	5,771	5,909	6,250	6,436	6,878	6,814	6,985
交通通信	18,297	20,236	22,368	23,988	25,729	27,239	27,950	28,819
教養育	7,750	8,637	9,057	9,985	10,414	11,729	12,157	13,118
教養娯楽	18,741	20,135	21,363	22,758	23,462	24,628	25,269	26,142
その他雑費	61,709	65,105	67,799	74,230	75,230	77,077	79,699	80,109

資料：日本長期統計総覧

備考：総理府統計局「家計調査（勤労者所帯・全国）」。昭和50年まで「住居費」のうち「水道料」は「光熱水道」、「家具什器」は「家具家事用品」に計上した。

消費支出構成比の年次別推移

	38 (1963)	39 (1964)	40 (1965)	41 (1966)	42 (1967)	43 (1968)	44 (1969)	45 (1970)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	36.4	35.9	36.2	35.1	34.5	33.7	32.8	32.3
住居	4.6	4.9	4.7	4.7	4.8	5.0	4.9	5.0
光熱水道	5.0	4.9	5.0	5.0	4.8	4.7	4.2	4.2
家具家事用品	5.9	5.5	5.4	5.5	6.1	6.8	5.9	5.6
被服履物	12.6	12.1	11.6	11.3	11.2	11.1	10.9	10.7
保健医療	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.5	2.7	2.6
交通通信	2.4	2.4	2.5	2.8	2.8	2.8	2.9	3.0
教育	2.9	3.1	3.5	3.3	3.2	2.8	2.4	2.3
娯楽	6.8	6.8	6.5	7.0	7.0	6.9	7.3	7.8
交際費	5.8	5.9	6.0	6.1	6.3	6.4	6.6	7.0
その他雑費	15.3	16.0	16.2	16.9	17.0	17.2	19.4	19.7

	46 (1971)	47 (1972)	48 (1973)	49 (1974)	50 (1975)	51 (1976)	52 (1977)	53 (1978)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	31.5	31.0	30.1	30.8	30.0	30.1	29.3	28.9
住居	4.9	5.1	5.0	5.2	4.8	5.0	4.9	4.9
光熱水道	4.1	4.0	3.9	3.9	4.1	4.3	4.5	4.5
家具家事用品	6.1	5.7	5.4	5.2	4.7	4.7	4.6	4.5
被服履物	10.7	10.7	11.2	10.9	10.4	8.9	8.4	8.1
保健医療	2.6	2.6	2.7	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5
交通通信	3.0	3.2	3.1	3.0	3.0	6.9	7.8	8.1
教育	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	3.1	3.2	3.4
娯楽	7.5	7.7	7.8	7.9	8.3	8.2	8.2	8.2
交際費	7.1	7.5	7.8	8.0	8.1			
その他雑費	20.1	20.3	21.0	20.7	22.0	26.3	26.7	27.0

	54 (1979)	55 (1980)	56 (1981)	57 (1982)	58 (1983)	59 (1984)	60 (1985)	61 (1986)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	27.9	27.8	27.5	26.7	26.5	26.1	25.7	25.5
住居	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8
光熱水道	4.4	5.3	5.9	5.7	5.8	6.0	5.9	5.8
家具家事用品	4.6	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.0
被服履物	7.9	7.5	7.3	7.1	6.9	6.8	7.0	7.0
保健医療	2.5	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4
交通通信	8.2	8.5	8.9	9.0	9.5	9.6	9.7	9.8
教育	3.5	3.6	3.6	3.8	3.8	4.1	4.2	4.5
娯楽	8.4	8.5	8.5	8.6	8.6	8.7	8.7	8.9
その他雑費	27.7	27.3	27.0	27.9	27.6	27.3	27.5	27.3

消費支出の年次別推移

単位：円

	38 (1963)	39 (1964)	40 (1965)	41 (1966)	42 (1967)	43 (1968)	44 (1969)	45 (1970)
消費支出	41,152	45,057	48,765	53,136	58,762	64,909	72,044	82,098
食料	14,968	16,191	17,633	18,668	20,284	21,871	23,648	26,500
住居	1,913	2,187	2,312	2,514	2,808	3,238	3,549	4,081
光熱水道	2,060	2,187	2,429	2,638	2,849	3,061	3,037	3,421
家具家事用品	2,433	2,487	2,613	2,913	3,565	4,425	4,219	4,592
被服履物	5,200	5,458	5,677	5,985	6,567	7,183	7,866	8,754
保健医療	918	1,098	1,204	1,259	1,371	1,637	1,935	2,132
交通通信	997	1,103	1,228	1,481	1,640	1,830	2,068	2,453
教育	1,176	1,389	1,710	1,753	1,871	1,843	1,742	1,866
教養娯楽	2,812	3,067	3,166	3,720	4,103	4,486	5,268	6,373
交際費	2,380	2,676	2,910	3,250	3,708	4,164	4,762	5,725
その他雑費	6,295	7,214	7,883	8,955	9,996	11,171	13,949	16,201

	46 (1971)	47 (1972)	48 (1973)	49 (1974)	50 (1975)	51 (1976)	52 (1977)	53 (1978)
消費支出	90,913	99,318	117,158	142,203	166,032	180,663	197,937	208,232
食料	28,622	30,749	35,249	43,819	49,828	54,386	57,956	60,200
住居	4,478	5,092	5,817	7,398	7,993	8,972	9,727	10,113
光熱水道	3,746	3,946	4,539	5,537	6,860	7,694	8,820	9,363
家具家事用品	5,564	5,662	6,346	7,348	7,876	8,404	9,019	9,397
被服履物	9,691	10,615	13,079	15,430	17,190	16,134	16,645	16,778
保健医療	2,401	2,614	3,109	3,379	3,957	4,581	4,826	5,187
交通通信	2,706	3,171	3,633	4,222	4,940	12,442	15,506	16,837
教育	2,097	2,245	2,539	3,089	3,686	5,554	6,370	7,097
教養娯楽	6,823	7,648	9,180	11,205	13,701	14,892	16,156	17,076
交際費	6,486	7,453	9,121	11,372	13,451			
その他雑費	18,229	20,124	24,548	29,404	36,550	47,604	52,913	56,182

	54 (1979)	55 (1980)	56 (1981)	57 (1982)	58 (1983)	59 (1984)	60 (1985)	61 (1986)
消費支出	222,438	238,126	251,275	266,063	272,199	282,716	289,489	293,630
食料	62,064	66,245	69,032	71,046	72,099	73,669	74,369	74,889
住居	10,648	11,297	11,956	12,601	12,929	13,551	13,748	14,215
光熱水道	9,850	12,693	14,757	15,229	15,774	17,044	17,125	16,912
家具家事用品	10,176	10,092	10,618	11,061	11,216	11,666	12,182	11,888
被服履物	17,587	17,914	18,417	18,915	18,910	19,236	20,176	20,554
保健医療	5,616	5,771	5,909	6,250	6,436	6,878	6,814	6,985
交通通信	18,297	20,236	22,368	23,988	25,729	27,239	27,950	28,819
教育	7,750	8,637	9,057	9,985	10,414	11,729	12,157	13,118
教養娯楽	18,741	20,135	21,363	22,758	23,462	24,628	25,269	26,142
その他雑費	61,709	65,105	67,799	74,230	75,230	77,077	79,699	80,109

資料：日本長期統計総覧

備考：総理府統計局『家計調査（勤労者所帯・全国）』。昭和50年まで「住居費」のうち「水道料」は「光熱水道」、「家具什器」は「家具家事用品」に計上した。

消費支出構成比の年次別推移

	38 (1963)	39 (1964)	40 (1965)	41 (1966)	42 (1967)	43 (1968)	44 (1969)	45 (1970)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	36.4	35.9	36.2	35.1	34.5	33.7	32.8	32.3
住居	4.6	4.9	4.7	4.7	4.8	5.0	4.9	5.0
光熱水道	5.0	4.9	5.0	5.0	4.8	4.7	4.2	4.2
家具家事用品	5.9	5.5	5.4	5.5	6.1	6.8	5.9	5.6
被服履物	12.6	12.1	11.6	11.3	11.2	11.1	10.9	10.7
保健医療	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.5	2.7	2.6
交通通信	2.4	2.4	2.5	2.8	2.8	2.8	2.9	3.0
教育	2.9	3.1	3.5	3.3	3.2	2.8	2.4	2.3
娯楽	6.8	6.8	6.5	7.0	7.0	6.9	7.3	7.8
交際費	5.8	5.9	6.0	6.1	6.3	6.4	6.6	7.0
その他雑費	15.3	16.0	16.2	16.9	17.0	17.2	19.4	19.7

	46 (1971)	47 (1972)	48 (1973)	49 (1974)	50 (1975)	51 (1976)	52 (1977)	53 (1978)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	31.5	31.0	30.1	30.8	30.0	30.1	29.3	28.9
住居	4.9	5.1	5.0	5.2	4.8	5.0	4.9	4.9
光熱水道	4.1	4.0	3.9	3.9	4.1	4.3	4.5	4.5
家具家事用品	6.1	5.7	5.4	5.2	4.7	4.7	4.6	4.5
被服履物	10.7	10.7	11.2	10.9	10.4	8.9	8.4	8.1
保健医療	2.6	2.6	2.7	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5
交通通信	3.0	3.2	3.1	3.0	3.0	6.9	7.8	8.1
教育	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	3.1	3.2	3.4
娯楽	7.5	7.7	7.8	7.9	8.3	8.2	8.2	8.2
交際費	7.1	7.5	7.8	8.0	8.1			
その他雑費	20.1	20.3	21.0	20.7	22.0	26.3	26.7	27.0

	54 (1979)	55 (1980)	56 (1981)	57 (1982)	58 (1983)	59 (1984)	60 (1985)	61 (1986)
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	27.9	27.8	27.5	26.7	26.5	26.1	25.7	25.5
住居	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8
光熱水道	4.4	5.3	5.9	5.7	5.8	6.0	5.9	5.8
家具家事用品	4.6	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.0
被服履物	7.9	7.5	7.3	7.1	6.9	6.8	7.0	7.0
保健医療	2.5	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4
交通通信	8.2	8.5	8.9	9.0	9.5	9.6	9.7	9.8
教育	3.5	3.6	3.6	3.8	3.8	4.1	4.2	4.5
娯楽	8.4	8.5	8.5	8.6	8.6	8.7	8.7	8.9
その他雑費	27.7	27.3	27.0	27.9	27.6	27.3	27.5	27.3

現金実収入五分位階級別一所帯当り年平均1ヶ月間の被服費の推移 (勤労者所帯)

単位：円、%

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出 総額	被服費	可処分 所得	被服費割合	
							対消費 支出	対可処分 所得
26(1951)	4.68	16,532	16,235	14,620	2,017	14,917	13.8	13.5
Ⅰ	4.11	5,516	9,443	9,197	972	5,270	10.6	18.4
Ⅱ	4.25	11,107	11,829	11,218	1,310	10,496	11.7	12.5
Ⅲ	4.64	14,830	14,639	13,627	1,756	13,818	12.9	12.7
Ⅳ	4.96	19,428	18,264	16,540	2,356	17,704	14.2	13.3
Ⅴ	5.44	31,781	27,006	22,523	3,691	27,298	16.4	13.5
27(1952)	4.77	20,822	19,992	18,161	2,691	18,991	14.8	14.2
Ⅰ	4.19	7,188	11,442	11,230	1,269	6,976	11.3	18.2
Ⅱ	4.38	14,150	14,610	13,999	1,769	13,539	12.6	13.1
Ⅲ	4.78	18,744	17,961	16,854	2,360	17,637	14.0	13.4
Ⅳ	5.06	24,397	22,433	20,430	3,064	22,394	15.0	13.7
Ⅴ	5.44	39,630	33,512	28,290	4,995	34,408	17.7	14.5
28(1953)	4.79	26,025	24,687	21,727	3,103	23,065	14.3	13.5
Ⅰ	4.14	10,459	13,695	13,172	1,429	9,936	10.8	14.4
Ⅱ	4.43	17,829	17,945	16,780	2,124	16,664	12.7	12.7
Ⅲ	4.81	23,372	22,406	20,422	2,807	21,388	13.7	13.1
Ⅳ	5.15	30,478	28,160	24,798	3,632	27,116	14.6	13.4
Ⅴ	5.38	47,987	41,229	33,460	5,522	40,218	16.5	13.7
29(1954)	4.80	28,283	26,428	23,067	2,891	24,992	12.5	11.6
Ⅰ	4.12	10,950	14,259	13,760	1,288	10,451	9.4	12.3
Ⅱ	4.50	19,079	18,806	17,613	1,972	17,886	11.2	11.0
Ⅲ	4.79	25,039	23,627	21,537	2,615	22,949	12.1	11.4
Ⅳ	5.14	32,928	29,877	26,274	3,469	29,325	13.2	11.8
Ⅴ	5.45	53,419	45,569	36,151	5,112	44,001	14.1	11.6
30(1955)	4.71	29,219	26,807	23,523	2,873	25,935	12.2	11.1
Ⅰ	4.03	11,487	14,171	13,717	1,225	11,033	8.9	11.1
Ⅱ	4.42	19,723	19,103	17,928	1,957	18,548	10.9	10.6
Ⅲ	4.70	26,009	23,762	21,719	2,623	23,966	12.1	10.9
Ⅳ	5.02	33,931	30,199	26,644	3,385	30,376	12.7	11.1
Ⅴ	5.39	54,950	46,808	37,612	5,143	45,754	13.7	11.2
31(1956)	4.47	30,928	27,634	24,288	3,065	27,582	12.6	11.1
Ⅰ	3.84	12,439	14,706	14,224	1,369	11,957	9.6	11.4
Ⅱ	4.18	21,073	19,973	18,796	2,116	19,896	11.3	10.6
Ⅲ	4.45	27,426	24,742	22,677	2,831	25,361	12.5	11.2
Ⅳ	4.32	35,494	30,905	27,436	3,649	32,025	13.3	11.4
Ⅴ	5.37	58,209	47,844	38,309	5,362	48,674	14.0	11.0

資料：日本長期統計総覧

備考：総理府統計局「家計調査」

昭和26・27年は品目分類によるため「交際費」が各項に含まれる

現金実収入五分位階級別一所得帯平均1ヶ月間の被服費の推移 (勤労者所帯)

単位:円, %

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出 総 額	被服費	可処分 所 得	被服費割合	
							対消費 支 出	対可処分 所 得
32(1957)	4.45	32,758	28,999	26,129	3,309	29,888	12.7	11.1
I	3.79	12,799	15,302	14,832	1,389	12,329	9.4	11.3
II	4.13	22,032	20,840	19,775	2,216	20,967	11.2	10.6
III	4.47	28,782	25,984	24,216	2,981	27,014	12.3	11.0
IV	4.68	37,445	32,280	29,264	3,872	34,429	13.2	11.2
V	5.17	62,733	50,589	42,559	6,083	54,703	14.3	11.1
33(1958)	4.46	34,723	30,693	27,841	3,364	31,901	12.1	10.5
I	3.85	13,421	16,005	15,541	1,425	12,957	9.2	11.0
II	4.19	23,394	22,018	20,911	2,260	22,287	12.5	10.1
III	4.42	30,734	27,529	25,669	3,011	28,874	11.7	10.4
IV	4.67	40,108	34,423	31,337	3,897	37,022	12.4	10.5
V	5.18	66,124	53,499	45,755	6,227	58,380	13.6	10.7
34(1959)	4.41	36,954	32,187	29,425	3,533	34,192	12.0	10.3
I	3.80	14,573	16,744	16,254	1,513	14,083	9.3	10.7
II	4.16	25,022	23,182	22,085	2,422	23,925	11.0	10.1
III	4.40	32,974	29,200	27,392	3,178	31,166	11.6	10.2
IV	4.67	42,566	36,593	33,686	4,114	39,659	12.2	10.4
V	5.04	69,634	55,215	47,706	6,438	62,125	13.5	10.4
35(1960)	4.36	41,020	35,337	32,127	3,939	37,810	12.3	10.4
I	3.67	16,194	18,438	17,878	1,732	15,634	9.7	11.1
II	4.11	27,763	25,669	24,381	2,688	26,475	11.0	10.2
III	4.37	35,940	31,657	29,663	3,570	33,946	12.0	10.5
IV	5.66	46,690	39,212	35,906	4,529	43,384	12.6	10.4
V	5.00	73,514	61,710	52,809	7,176	69,613	13.6	10.3
36(1961)	4.22	45,292	38,307	34,960	4,470	41,945	12.8	10.7
I	3.60	17,513	20,014	19,398	2,049	16,897	10.6	12.1
II	3.99	30,167	27,947	26,569	3,073	28,789	11.6	10.7
III	4.19	39,635	34,286	32,114	4,062	37,463	12.6	10.8
IV	4.44	51,859	43,189	39,650	5,246	48,320	13.2	10.9
V	4.87	87,285	66,098	57,071	7,920	78,258	13.9	10.1
37(1962)	4.17	51,009	43,316	39,403	5,097	47,096	12.9	10.8
I	3.59	20,535	23,573	22,761	2,518	19,723	11.1	12.8
II	3.93	35,220	32,367	30,663	3,559	33,516	11.6	10.6
III	4.20	45,668	39,358	36,617	4,648	42,927	12.7	10.8
IV	4.39	58,686	49,007	44,678	5,918	54,357	13.2	10.9
V	4.72	94,937	72,275	62,296	8,843	84,958	14.2	10.4

資料:日本長期統計総覧

備考:総理府統計局「家計調査」

昭和33年1月に収支項目分類の改正があり、被服費の内訳が変更された。

年間実収入五分位階級別一所帯当り年平均1ヶ月間の被服費の推移 (勤労者所帯)

単位：円、%

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出 総 額	被 服 費	可 処 分 所 得	被服費割合	
							対消費 支 出	対可処分 所 得
38(1963)	4.19	53,563	45,453	41,152	5,200	49,262	12.6	10.6
I	3.65	27,371	24,921	23,748	2,665	26,198	11.2	10.2
II	3.97	40,132	34,489	32,278	3,829	37,921	11.9	10.1
III	4.21	49,780	42,161	38,904	4,859	46,523	12.5	10.4
IV	4.38	61,015	51,330	46,534	6,040	56,219	13.0	10.7
V	4.72	88,827	74,077	64,055	8,469	78,805	13.2	10.7
39(1964)	4.16	59,526	49,861	45,057	5,458	54,722	12.1	10.0
I	3.65	32,350	28,523	27,185	2,956	31,012	10.9	9.5
II	3.94	44,786	38,727	36,239	4,268	42,298	11.8	10.1
III	4.22	54,888	46,269	42,541	5,016	51,160	11.8	9.8
IV	4.34	66,509	55,288	50,000	6,194	61,221	12.4	10.1
V	4.66	97,659	79,839	68,843	8,729	86,663	12.7	10.1
40(1965)	4.12	64,889	54,306	48,756	5,677	59,348	11.6	9.6
I	3.63	35,965	31,830	30,163	3,262	34,298	10.8	9.5
II	3.88	50,158	42,812	39,748	4,482	47,094	11.3	9.5
III	4.15	59,397	50,037	45,750	5,244	55,074	11.5	9.5
IV	4.30	73,958	62,053	55,639	6,599	67,544	11.9	9.8
V	4.64	104,165	84,435	72,329	8,734	92,059	12.1	9.5
41(1966)	4.07	71,195	59,322	53,136	5,985	65,009	11.3	9.2
I	3.61	39,464	34,020	32,260	3,347	37,704	10.4	8.9
II	3.86	53,418	45,371	42,149	4,531	50,196	10.7	9.0
III	4.03	65,318	55,219	50,524	5,902	60,623	11.7	9.7
IV	4.29	80,879	67,184	60,151	6,769	73,846	11.2	9.2
V	4.56	115,370	94,375	80,352	9,284	101,347	11.6	9.2
42(1967)	4.04	79,526	65,516	58,762	6,567	72,772	11.2	9.0
I	3.59	42,990	37,610	35,653	3,582	41,033	10.0	8.7
II	3.85	60,272	50,414	46,940	5,102	56,799	10.9	9.0
III	4.06	73,351	61,156	56,156	6,326	68,352	11.3	9.3
IV	4.23	90,864	74,177	66,459	7,382	83,145	11.1	8.9
V	4.49	130,151	104,223	88,602	10,444	114,530	11.8	9.1
43(1968)	3.97	87,790	71,957	64,909	7,183	80,742	11.1	8.9
I	3.50	50,451	44,156	41,835	4,067	48,130	9.7	8.5
II	3.80	67,166	56,149	52,377	5,420	63,394	10.3	8.5
III	3.99	82,012	67,805	62,243	6,756	76,450	10.9	8.8
IV	4.12	98,780	80,924	72,684	8,243	90,540	11.3	9.1
V	4.42	140,842	110,749	96,405	11,428	125,198	11.9	9.1

資料：日本長期統計総覧

備考：総理府統計局「家計調査年報」昭和43年版

年間実収入五分位階級別一所帯当り年平均1ヶ月間の被服費の推移（勤労者所帯）

単位：円、%

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出		可処分 所得	被服費割合	
				総額	被服費		対消費 支出	対可処分 所得
44(1969)	3.89	97,626	79,732	72,044	7,866	89,938	10.9	8.7
I	3.47	57,486	50,074	47,446	4,548	54,857	9.6	8.3
II	3.75	76,954	64,463	59,969	6,160	72,459	10.3	8.5
III	3.87	91,950	75,795	69,545	7,446	85,701	10.7	8.7
IV	4.03	108,634	89,128	80,260	8,803	99,766	11.0	8.8
V	4.33	150,352	118,169	102,345	12,225	134,528	11.9	9.1
45(1970)	3.90	113,260	91,233	82,098	8,754	104,126	10.6	8.4
I	3.44	65,766	56,886	53,784	5,112	62,647	9.5	8.2
II	3.72	89,532	74,534	69,122	6,875	84,121	9.9	8.2
III	3.93	106,789	86,458	78,816	8,388	99,148	10.6	8.5
IV	4.08	127,501	101,457	90,702	9,945	116,747	10.9	8.5
V	4.31	172,298	135,007	116,799	13,177	154,090	11.3	8.6
46(1971)	3.87	124,199	101,058	90,913	9,691	114,054	10.7	8.5
I	3.46	73,037	64,010	60,470	5,864	69,498	9.7	8.4
II	3.73	97,509	82,355	76,196	7,698	91,350	10.1	8.4
III	3.92	117,444	95,886	87,282	9,164	108,839	10.5	8.4
IV	4.03	140,433	112,853	100,984	10,879	128,564	10.8	8.5
V	4.23	189,709	149,301	128,989	14,703	169,398	11.4	8.7
47(1972)	3.86	138,435	111,098	99,318	10,615	126,656	10.7	8.4
I	3.44	80,773	69,979	65,927	6,298	76,772	9.6	8.2
II	3.75	108,573	91,004	84,016	8,318	101,585	9.9	8.2
III	3.89	130,308	105,718	95,748	9,966	120,337	10.4	8.3
IV	4.01	155,773	123,486	109,965	11,732	142,252	10.7	8.2
V	4.21	211,495	163,316	139,642	16,414	187,820	11.8	8.7
48(1973)	3.85	166,489	132,170	117,158	13,079	151,478	11.2	8.6
I	3.46	99,162	84,892	79,335	7,788	93,605	9.8	8.3
II	3.73	130,818	107,975	98,600	10,380	121,443	10.5	8.5
III	3.88	156,001	124,666	111,903	12,123	143,238	10.8	8.5
IV	4.00	190,896	148,805	130,758	14,556	172,848	11.1	8.4
V	4.19	255,567	194,510	165,196	20,546	226,254	12.4	9.1
49(1974)	3.83	205,792	160,169	142,203	15,430	187,825	10.9	8.2
I	3.45	117,306	89,113	82,072	7,673	110,265	9.3	7.0
II	3.74	160,942	122,016	110,818	11,250	149,744	10.2	7.5
III	3.87	193,415	145,128	129,998	14,119	178,301	10.9	7.9
IV	3.95	235,768	176,375	154,815	17,567	214,208	11.3	8.2
V	4.14	321,527	268,231	233,311	26,540	286,607	11.4	9.3

資料：日本長期統計総覧

備考：総理府統計局「家計調査年報」

年間実収入五分位階級別一帯当り年平均1ヶ月間の被服費の推移 (勤労者所帯)

単位：円、%

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出		可処分 所得	被服費割合	
				総額	被服費		対消費 支出	対可処分 所得
50(1975)	3.82	236,152	186,676	166,032	17,190	215,509	10.4	8.0
Ⅰ	3.43	135,645	99,443	90,907	7,866	127,109	8.7	6.2
Ⅱ	3.75	183,457	141,492	127,385	12,049	169,350	9.5	7.1
Ⅲ	3.86	221,799	169,710	151,667	15,057	203,756	9.9	7.4
Ⅳ	3.97	269,044	205,085	181,059	19,409	245,019	10.7	7.9
Ⅴ	4.06	370,816	317,649	279,143	31,570	332,311	11.3	9.5
51(1976)	3.79	258,237	205,439	180,663	16,134	233,462	8.9	6.9
Ⅰ	3.43	150,513	126,377	116,642	9,001	140,778	7.7	6.4
Ⅱ	3.68	200,781	163,803	147,978	12,114	184,956	8.2	6.5
Ⅲ	3.82	240,011	192,081	171,408	14,945	219,338	8.7	6.8
Ⅳ	3.93	297,266	231,158	202,325	17,989	268,434	8.9	6.7
Ⅴ	4.07	402,614	313,734	264,924	26,632	353,803	10.1	7.5
52(1977)	3.79	286,039	227,637	197,937	16,645	256,340	8.4	6.5
Ⅰ	3.43	167,737	146,519	135,133	9,850	156,351	7.3	6.3
Ⅱ	3.70	222,780	185,722	167,374	12,918	204,432	7.7	6.3
Ⅲ	3.85	267,952	214,252	188,882	15,375	242,582	8.1	6.3
Ⅳ	3.92	326,033	254,308	220,062	18,945	291,787	8.6	6.5
Ⅴ	4.06	445,690	337,384	276,237	26,140	386,543	9.5	6.8
53(1978)	3.82	304,562	242,487	208,232	16,778	270,307	8.1	6.2
Ⅰ	3.47	176,326	155,821	142,347	10,156	162,852	7.1	6.2
Ⅱ	3.76	235,636	194,859	172,945	12,961	213,722	7.5	6.1
Ⅲ	3.84	285,162	231,137	201,492	15,602	255,517	7.7	6.1
Ⅳ	3.96	347,802	269,989	229,830	18,708	307,643	8.1	6.1
Ⅴ	4.09	477,885	360,675	294,591	26,471	411,800	9.0	6.4
54(1979)	3.83	326,013	261,624	222,438	17,587	286,828	7.9	6.1
Ⅰ	3.50	193,450	167,392	150,786	10,811	176,843	7.2	6.1
Ⅱ	3.78	256,760	213,654	188,834	13,832	231,939	7.3	6.0
Ⅲ	3.89	306,797	246,429	212,698	16,547	273,066	7.8	6.1
Ⅳ	3.91	369,376	289,417	243,105	19,636	323,064	8.1	6.1
Ⅴ	4.05	503,669	391,237	316,782	27,111	429,214	8.6	6.3
55(1980)	3.83	349,636	282,263	238,126	17,914	305,549	7.5	5.9
Ⅰ	3.51	205,105	180,334	162,636	10,547	187,407	6.5	5.6
Ⅱ	3.72	272,920	226,686	199,061	13,848	245,294	7.0	5.6
Ⅲ	3.89	330,306	265,399	227,540	16,323	292,447	7.2	5.6
Ⅳ	3.93	396,144	313,921	262,430	19,495	344,653	7.4	5.7
Ⅴ	4.04	543,956	424,972	338,961	29,357	457,945	8.7	6.4

資料：日本長期統計総覧

備考：昭和50年は総理府統計局「家計調査年報」

昭和51～55年は総理府統計局「昭和38～55年の家計」

年間実収入五分位階級別一所帯当り年平均1ヶ月間の被服費の推移 (勤労者所帯)

単位：円、%

	所帯 員数	実収入	実支出	消費支出		可処分 所得	被服費割合	
				総額	被服費		対消費 支出	対可処分 所得
56(1981)	3.80	367,111	301,107	251,275	18,417	317,279	7.3	5.7
Ⅰ	3.43	211,669	189,879	169,801	10,813	191,591	6.4	5.6
Ⅱ	3.77	284,389	240,379	208,498	13,728	252,508	6.6	5.4
Ⅲ	3.87	346,530	284,180	240,468	17,044	302,819	7.1	5.6
Ⅳ	3.95	419,329	337,448	279,641	20,633	361,521	7.4	5.7
Ⅴ	3.99	573,640	453,651	357,969	29,869	477,958	8.3	6.2
57(1982)	3.80	393,014	323,550	266,063	18,915	335,526	7.1	5.6
Ⅰ	3.43	227,659	202,135	178,775	10,756	204,299	6.0	5.3
Ⅱ	3.73	305,552	257,046	220,672	14,133	269,178	6.4	5.3
Ⅲ	3.86	369,791	301,281	251,525	17,587	320,036	7.0	5.5
Ⅳ	3.99	443,676	361,737	296,879	21,762	378,818	7.3	5.7
Ⅴ	3.99	618,391	495,554	382,464	30,338	505,301	7.9	6.0
58(1983)	3.79	405,517	333,603	272,199	18,910	344,113	6.9	5.5
Ⅰ	3.48	233,458	209,290	184,868	11,092	209,036	6.0	5.3
Ⅱ	3.75	314,215	262,810	224,569	14,305	275,973	6.4	5.2
Ⅲ	3.84	379,602	313,799	261,222	17,110	327,026	6.5	5.2
Ⅳ	3.91	466,064	373,690	300,325	20,684	392,698	6.9	5.3
Ⅴ	3.98	634,245	508,424	390,010	31,361	515,831	8.0	6.1
59(1984)	3.79	424,025	347,388	282,716	19,236	359,353	6.8	5.4
Ⅰ	3.33	240,029	215,274	190,086	10,955	214,842	5.8	5.1
Ⅱ	3.74	329,918	277,859	236,727	14,511	288,787	6.1	5.0
Ⅲ	3.87	402,991	328,609	271,332	17,725	345,714	6.5	5.1
Ⅳ	3.92	489,118	392,048	315,906	21,964	412,976	7.0	5.3
Ⅴ	4.03	658,066	523,148	399,531	31,028	534,449	7.8	5.8
60(1985)	3.79	444,846	360,642	289,489	20,176	373,693	7.0	5.4
Ⅰ	3.36	247,897	219,669	192,160	11,606	220,388	6.0	5.3
Ⅱ	3.73	337,088	282,846	239,485	14,755	293,727	6.2	5.0
Ⅲ	3.86	419,016	334,481	273,248	18,222	357,783	6.7	5.1
Ⅳ	3.94	510,747	409,598	326,524	22,758	427,673	7.0	5.3
Ⅴ	4.04	709,482	536,618	416,029	33,538	568,893	8.1	5.9
61(1986)	3.78	452,942	367,052	293,630	20,554	379,520	7.0	5.4
Ⅰ	3.41	250,540	218,073	191,280	11,598	223,748	6.1	5.2
Ⅱ	3.75	346,455	290,991	246,457	15,708	301,921	6.4	5.2
Ⅲ	3.86	426,196	345,812	282,374	18,326	362,758	6.5	5.1
Ⅳ	3.92	522,993	415,294	327,348	22,845	435,048	7.0	5.3
Ⅴ	3.97	718,528	565,091	420,691	34,290	574,128	8.2	6.0

資料：日本長期統計総覧

備考：昭和56～57年は総理府統計局「家計調査」

昭和58年以降は総務庁統計局「家計調査」

被服及び履物支出の年次別推移（全所帯）

単位：円，％

	38		39		40		41		42	
被服履物	53,532	100.0	56,994	100.0	60,273	100.0	63,602	100.0	68,529	100.0
和服	4,802	9.0	4,901	8.6	5,526	9.2	6,374	10.0	6,960	10.2
洋服	14,426	26.9	15,585	27.3	16,411	27.2	17,560	27.6	19,580	28.6
シャツ・セーター類	5,197	9.7	5,671	10.0	6,086	10.1	6,489	10.2	6,978	10.2
下着類	4,106	7.7	4,495	7.9	4,704	7.8	5,024	7.9	5,555	8.1
生地糸類	8,774	16.4	9,131	16.0	9,673	16.0	9,542	15.0	10,291	15.0
他の被服	4,184	7.8	4,445	7.8	4,675	7.8	4,806	7.6	4,963	7.2

	43		44		45		46		47	
被服履物	75,999	100.0	83,548	100.0	93,635	100.0	104,184	100.0	114,784	100.0
和服	8,206	10.8	9,195	11.0	10,803	11.5	11,957	11.5	12,577	11.0
洋服	21,731	28.6	24,674	29.5	28,385	30.3	31,759	30.5	38,025	33.1
シャツ・セーター類	7,927	10.4	8,977	10.7	10,145	10.8	11,703	11.2	13,244	11.5
下着類	6,020	7.9	6,774	8.1	7,725	8.3	8,394	8.1	9,413	8.2
生地糸類	11,532	15.2	11,582	13.9	12,121	12.9	13,444	12.9	12,827	11.2
他の被服	5,136	6.8	5,769	6.9	6,536	7.0	7,659	7.4	8,152	7.1

	48		49		50		51		52	
被服履物	139,723	100.0	162,230	100.0	180,621	100.0	200,692	100.0	205,564	100.0
和服	15,713	11.2	16,735	10.3	18,378	10.2	20,287	10.1	20,130	9.8
洋服	47,019	33.7	55,751	34.4	65,659	36.4	74,722	37.2	75,923	36.9
シャツ・セーター類	16,930	12.1	20,137	12.4	22,373	12.4	25,914	12.9	26,749	13.0
下着類	12,164	8.7	14,156	8.7	14,693	8.1	16,565	8.3	17,950	8.7
生地糸類	15,265	10.9	16,734	10.3	17,133	9.5	16,636	8.3	15,927	7.7
他の被服	9,476	6.8	10,700	6.6	11,787	6.5	13,228	6.6	13,770	6.7

	53		54		55		56		57	
被服履物	212,496	100.0	220,849	100.0	228,878	100.0	225,391	100.0	233,686	100.0
和服	20,129	9.5	20,441	9.3	21,326	9.3	20,411	9.1	22,607	9.7
洋服	79,559	37.4	84,485	38.3	86,209	37.7	85,068	37.7	87,248	37.3
シャツ・セーター類	28,101	13.2	29,984	13.6	34,628	15.1	34,538	15.3	36,943	15.8
下着類	19,250	9.1	19,567	8.9	19,965	8.7	18,864	8.3	19,708	8.4
生地糸類	14,874	7.0	13,937	6.3	13,292	5.8	12,727	5.6	12,520	5.4
他の被服	14,167	6.7	13,948	6.3	14,764	6.5	14,799	6.6	14,628	6.3

	58		59		60		61	
被服履物	234,167	100.0	234,688	100.0	247,415	100.0	249,498	100.0
和服	19,112	8.2	19,182	8.2	19,287	7.8	19,173	7.7
洋服	89,727	38.3	88,763	37.8	94,974	38.4	96,970	38.9
シャツ・セーター類	38,107	16.3	38,662	16.5	41,098	16.6	42,487	17.0
下着類	20,278	8.7	20,853	8.9	21,128	8.5	20,862	8.4
生地糸類	11,248	4.8	10,854	4.6	12,220	4.9	11,559	4.6
他の被服	15,273	6.5	15,323	6.5	15,789	6.4	16,022	6.4

資料：日本長期統計総覧・総理府統計局「家計調査」

被服類購入状況比較（昭和46・61年対比）

	昭和46年		昭和61年		構成比	
	金額	数量	金額	数量	46年	61年
被服及び履物	104,184		249,498		100.0	100.0
和服	11,957		19,173		11.5	7.7
男子着物	458	0.058枚	408	0.009枚	0.4	0.2
他の男子和服	507		360		0.5	0.1
婦人絹着物	5,400	0.145枚	11,065	0.068枚	5.2	4.4
他の婦人着物	1,435	0.313枚	466	0.040枚	1.4	0.2
婦人帯	1,932	0.205本	4,242	0.067本	3.7	1.7
婦人コート	561	0.064枚	658	0.017枚	0.5	0.3
婦人和服用下着	410		504		0.4	0.2
他の婦人和服	603		306		0.6	0.1
子供用和服	651		1,165		0.6	0.5
洋服	31,759		96,970		30.5	38.9
男子洋服	12,822		33,544		12.3	13.4
背広服	6,406	0.235着	13,922	0.270着	6.1	5.6
男子上着	749	0.101着	3,166	0.176着	0.7	1.3
男子ズボン	2,512	0.985本	6,264	1.251本	2.4	2.5
男子オーバー	726	0.055着	1,752	0.046着	0.7	0.7
男子レインコート	329	0.049着	523	0.023着	0.3	0.2
他の男子洋服	2,100		5,991		2.0	2.4
婦人洋服	12,206		50,926		11.7	20.4
婦人服	6,504	1.374着	21,963	1.360着	6.2	8.8
スカート	1,649	1.136枚	9,818	1.764枚	1.6	3.9
婦人スラックス	780	0.495本	3,646	1.068本	0.7	1.5
婦人オーバー	1,274	0.129着	5,392	0.161着	1.2	2.2
婦人レインコート	340	0.074着	616	0.050着	0.3	0.2
他の婦人洋服	1,659		7,168		1.6	2.9
子供洋服	6,731		12,500		6.5	5.0
シャツ・セーター類	11,703		42,487		11.2	17.0
男子シャツ・セーター類	4,338		14,292		4.2	5.7
男子ワイシャツ	1,400	1.024枚	4,000	1.221枚	1.3	1.6
他の男子シャツ	402	0.233枚	5,219	1.777枚	0.4	2.1
男子セーター	2,536	1.245枚	5,073	0.889枚	2.4	2.0
婦人シャツ・セーター類	5,023		23,431		4.8	9.4
ブラウス	1,259	1.026枚	8,635	1.951枚	1.2	3.5
他の婦人シャツ	3,764		2,430	1.260枚	3.6	1.0
婦人セーター			12,366	2.120枚		4.9
子供シャツ・セーター類	2,342		4,763		2.2	1.9
下着類	8,394		20,862		8.1	8.4
生地・糸類	13,444		11,559		12.9	4.6
着尺地	5,239		3,288		5.0	1.3
生地	5,887		4,326		5.7	1.7
他の被服	7,659		16,022		7.4	6.4
帽子	621	1.269個	1,077	0.724個	0.6	0.4
ネクタイ	642	0.516本	1,820	0.547本	0.9	0.7
襟巻その他	595		1,294		0.6	0.5

一帯年間和服等購入状況

		被服及 履物	和 服	男 子	婦 人	婦 人	婦 人	婦 人	婦 人	婦 人	子 供
		金 額 円	金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	着 物 金 額 円	用 服 金 額 円
1963	38	53,532	4,802	…	2,269	…	…	566	0.111	1,307	
64	39	56,994	4,901	…	2,406	…	…	446	0.095	1,385	
65	40	60,273	5,526	…	2,749	…	…	444	0.088	1,562	
66	41	63,602	6,374	…	3,435	…	…	435	0.085	1,601	
67	42	68,529	6,960	…	3,530	…	…	472	0.088	1,777	
68	43	75,999	8,206	…	4,387	…	…	444	0.079	2,047	
69	44	83,548	9,195	…	4,966	…	…	472	0.075	2,271	
70	45	93,635	10,803	834	5,970	4,481	0.138	566	0.067	719	
71	46	104,184	11,957	965	6,838	5,400	0.145	561	0.064	651	
72	47	114,784	12,577	984	7,047	5,652	0.149	505	0.053	736	
73	48	139,723	15,713	1,172	9,033	7,808	0.165	458	0.039	972	
74	49	162,230	16,735	1,492	9,100	7,857	0.148	524	0.041	1,177	
75	50	180,621	18,378	1,460	9,920	8,581	0.142	602	0.041	1,166	
76	51	200,692	20,287	1,711	11,168	10,099	0.153	715	0.042	1,298	
77	52	205,564	20,130	1,347	12,002	11,207	0.146	603	0.034	1,214	
78	53	212,498	20,129	1,283	11,858	11,229	0.130	706	0.031	1,117	
79	54	220,849	20,441	1,197	12,001	11,351	0.127	625	0.025	1,293	
80	55	228,878	21,326	1,350	12,991	12,307	0.109	597	0.029	1,172	
81	56	225,391	20,411	1,097	12,663	11,971	0.098	557	0.018	996	
82	57	233,686	22,607	1,221	13,628	12,961	0.104	697	0.021	1,169	
83	58	234,167	19,112	910	11,962	11,358	0.086	481	0.016	1,162	
84	59	234,688	19,182	823	11,803	11,326	0.076	521	0.016	1,213	
85	60	247,415	19,287	758	11,906	11,340	0.071	460	0.016	863	
86	61	249,498	19,173	768	11,531	11,065	0.068	658	0.017	1,165	
87	62	253,813	19,954	898	12,034	…	…	322	0.008	1,478	
88	63	265,371	19,020	801	11,789	…	…	646	0.010	704	

資料：総務庁統計局「家計調査年報」昭和61年版及び昭和63年版
昭和60年1月及び昭和62年1月に品目改正を行った。

一 所帯年間洋服等購入状況

		被服及 び履物	洋 服	男 子 洋 服	背 広 服		婦 人 服		ブラウス	
		金 額 円	金 額 円	金 額 円	金 額 円	数 量 枚	金 額 円	数 量 枚	金 額 円	数 量 枚
1963	38	53,532	14,426	7,412	3,200	0.194	1,445	0.473	908	1.33
64	39	56,994	15,585	7,710	3,380	0.199	1,759	0.549	982	1.37
65	40	60,273	16,411	8,002	3,575	0.197	1,909	0.551	1,017	1.33
66	41	63,602	17,560	8,478	3,793	0.202	2,175	0.633	1,026	1.30
67	42	68,529	19,580	9,425	4,239	0.212	2,763	0.804	1,001	1.17
68	43	75,999	21,731	10,036	4,826	0.226	3,539	0.930	1,046	1.14
69	44	83,548	24,674	10,600	5,182	0.230	4,498	1.138	1,033	0.016
70	45	93,635	28,385	11,936	6,008	0.241	5,437	1.241	986	0.877
71	46	104,184	31,759	12,822	6,406	0.235	6,504	1.374	1,259	1.026
72	47	114,784	38,025	14,468	7,436	0.261	8,237	1.541	1,563	1.112
73	48	139,723	47,019	17,177	8,499	0.256	9,799	1.494	2,450	1.314
74	49	162,230	55,751	20,478	9,833	0.260	10,677	1.384	3,302	1.601
75	50	180,621	65,659	22,856	10,841	0.270	13,738	1.417	4,366	1.873
76	51	200,692	74,722	25,813	12,575	0.279	16,086	1.400	5,486	2.121
77	52	205,564	75,923	27,093	13,322	0.293	16,344	1.449	6,103	2.264
78	53	212,498	79,559	25,962	12,149	0.276	19,843	1.722	6,509	2.288
79	54	220,849	84,485	28,327	13,137	0.286	21,822	1.721	7,278	2.244
80	55	228,878	86,209	29,262	13,044	0.269	21,522	1.608	7,060	2.067
81	56	225,391	85,068	29,198	12,577	0.249	20,615	1.488	6,638	1.861
82	57	233,686	87,248	30,540	13,572	0.271	21,406	1.418	7,184	1.826
83	58	234,167	89,727	32,001	14,152	0.271	21,206	1.379	6,921	1.740
84	59	234,688	88,763	31,038	12,889	0.255	19,227	1.271	7,091	1.735
85	60	247,415	94,974	33,149	13,978	0.267	20,784	1.326	8,234	1.863
86	61	249,498	96,970	33,544	13,922	0.270	21,963	1.360	8,635	1.951
87	62	253,813	97,657	32,790	13,549	0.266	22,409	1.356	9,165	1.930
88	63	265,371	106,118	36,782	15,781	0.311	23,563	1.273	9,278	1.857

資料：総務庁統計局「家計調査年報」昭和61年版及び昭和63年版
昭和60年1月及び昭和62年1月に品目改正を行った。

絹素材に関するアンケート

配布数	92
回収	71
回収率	77.2%

1. あなたまたはあなたの会社では今までに絹を素材とした商品を作ったことがありますか。

ある	59		
ない	12	→その理由は？	
		学生だから	3
		使用するチャンスがなかった	1
		特に関心がなかった	1
		無回答	7

2. あなたまたはあなたの会社で今までに絹を素材として作った商品は？

ブラウス	36	ワイシャツ	2
ワンピース	19	ポロシャツ	1
ツーピース	9	ウェディングドレス	1
スーツ	20	タンクトップ	2
アンサンブル	4	パジャマ	1
ジャケット	17	ナイティー	1
セーター	10	インナー	6
コート	13	ランジェリー	8
スカート	16	布団カバー	2
パンツ	12	ピロケース	1
ニット	10	クッション	1
Tシャツ	8	キルトラップ	1
カーディガン	7	スカーフ	1
ブルオーバー	3	ショール	1

3. 絹を素材とする商品を作る上で困ったことや難しかったことがありましたか

あった 58

→それはどんなことでしたか。

素材の価格の面	36	62.1%
素材が安定的に入手できない	12	20.7
デザインが制約される	3	5.2
裁断の面	19	32.8
縫製の面	45	77.6
商品管理の面	21	36.2
商品価格設定の面	18	31.0

その他

アイロンが掛けにくかった

ランニングしやすい（ニットの場合）

堅牢度が悪いため、濃色の取扱が難しかった。

洗濯、乾燥等取扱啓蒙

不良品が多く出る

芯地の部分

染色堅牢度・物性の基準

なかった 3

無回答 10

4. あなたまたはあなたの会社が今後絹を取扱うに当って知りたい情報は？

- ・シルクのマーケティングリサーチの結果、消費者が絹に対して何を求めているかなど、風合い、加工などの基礎になる資料
- ・シルク素材の種類別の特徴と性質
- ・絹素材の物性と取扱情報 2
- ・パターンと縫製
- ・縫製と取扱方
- ・裁断・縫製の注意すべき点 2
- ・縫製上の注意点（伸び率など）

- ・縫製のノウハウ
- ・それぞれのシルク素材の特徴を生かすための芯地、縫製テクニックなど

・黄変させない為の対策 2

- ・耐汗の問題

- ・取扱が簡単にできるシルクの開発はなされているのか
- ・イージーケアの特性を持つ絹の開発状況
- ・消費者が取扱いやすいシルク（インナー・ナイトウェア・パジャマ等）
- ・日常着または夏物として使用しやすいシルク素材の情報
- ・もっと取扱いやすい素材があるかどうか（例えば水に対して、など）
- ・新商品の情報
- ・新商品の情報・動向について
- ・新しい素材提案
- ・最近の技術改善の情報
- ・新製品ハイブリッドシルクの情報
- ・ハイブリッドシルクや後加工シルク等の新商品について（価格や商品にした時の上りについて）
- ・ハイブリッドシルクの市場展開について

- ・整理、染色の安定供給の素材商社
- ・生地卸売業者の紹介がほしい
- ・市場性と売れる価格（インナー市場）
- ・シルクの入手方法（特に厚手のものは余り見掛けない）
- ・ハイブリッドシルクなど新しいシルク素材を個人的に入手する方法

- ・価格情報
- ・価格・供給量
- ・産地・染色・整理工場の組織化によるバランスの取れたオリジナル素材
- ・加工技術
- ・絹に関する専門書が少ない
- ・シルクスムースの素材としての安定性はどうか

- ・海外に於けるシルク製品の取扱われ方
- ・中国の絹地について
- ・中国産シルクの生地単価

無回答 37

5. 絹を素材とする商品をふやし、或いはより良いものにするための提言など、絹素材に関するご意見をお聞かせ下さい。

- ・絹として的高级感を訴求できるマーケティング戦略の必要性
- ・消費者に絹の良さを認知してもらう必要がある。
- ・一般消費者に対するPR 2
- ・消費者まで、絹の取扱上の注意やデメリットについて充分認識して貰えるよう小売業者やクリーニング業者も同時キャンペーンを張ってはどうか
- ・中間取扱者への教育等の情報を一般消費者にももっと広げる必要があるのではないか
- ・絹のメリット、デメリットを正確にPRし、ミスリードしない二次製品作り
- ・日常気軽に取扱い出来るテキスタイルの開発を希望
- ・ウォッシュブル衣料を作って気軽に日常品として扱われることが望ましい
- ・絹は未だ取扱いづらい商品としてのイメージが定着している。他繊維との複合、後加工の工夫などで、もっと身近な素材にしたい。
- ・ハイブリッドシルクのようなイージーケアのより一層の開発
- ・国産シルクでインナー向の素材開発を希望（現在国産シルクは高すぎる）
- ・インナーの為、洗濯性、ストレッチ性を希望
- ・物性安定と手軽に扱える方法
- ・裁断・縫製のしやすい布
- ・シルク100%の製品について縫製技術指導と格付けの設定。
- ・市場にはウォッシュブル（マシン）シルクと称して多数出回っているが、東南アジアの製品など全く表示とは異なる。このため消費者離れが生じているので、きちんとした基準を厳守させるべきだ。

- 価格が高い
- カジュアル化（価格も含めて）により需要拡大は可能
- インナーのシルクはとて着心地が良く肌にも優しいが、もう少し安価であればよいと思う

- 高価でデリケートなので着用するのが怖い気がする
- 稀少価値がつよく、手の届かないものというイメージがある。

- 人工シルクの開発はどの様にされているか知りたい
- 価格が問題…一般的にシルクの安いものが一般消費者に渡り易く、絹本来のイメージ（本当のシルクに対する正しい認識）が伝わらない恐れを感じる。良質のものが、ある程度安い価格でというのが理想的

- 価格面と素材の安定供給
- 品質の安定性
- 外観品位の改善＝微小欠点の改善
- 染色技術の向上が望まれる
- 生地メーカーとタイアップして製品化（可縫性の良いもの）して行きたい
- 安定した生産・販売が出来れば、一般消費はまだ広がると思う

- 遊びのあるプリント、織り柄など（表面変化）の物が少ない

- 絹に関する貿易上の障害を取除くこと

- 今後価格の安定性は望まれるか

無回答

43

平成5年9月16日 印刷

平成5年9月20日 発行

発行所 財団法人 衣笠会

〒603 京都市北区北野下白梅町29

電話 075-461-5949

印刷所 为国印刷株式会社

〒604 京都市中京区西ノ京馬代町6-16

電話 075-462-7889